

平成26年度（平成25年度対象）
松島町教育委員会教育行政点検評価報告書

平成26年9月
松島町教育委員会

～はじめに～

平成 19 年 6 月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が改正され、各教育委員会においては、毎年、教育行政事務の管理及び執行状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を町議会に提出するとともに、公表することが規定されました。

松島町教育委員会は、効果的な教育行政の推進に資するとともに町民への説明責任を果たしていくため、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 27 条の規定に基づき、平成 20 年度（平成 19 年度対象）から、点検及び評価を行い、教育に関する学識経験者の意見を付して報告しております。

かかる趣旨から、本報告書は毎年策定する教育基本方針に基づく具体的施策や重点事業等の実施状況について点検及び評価を行い、学識経験者の意見を聴取したうえで、課題や今後の改善方策を明らかにするとともに効率的かつ効果的な教育行政の推進を図ることを目的に編さんされています。これを議会に提出して公表することにより、町民に対する説明責任を果たし、町民から信頼される教育行政をめざすものです。

本報告書については、第 1 章として松島町教育委員会の会議について、第 2 章として平成 25 年度松島町教育基本方針と重点施策についてとりまとめました。また、第 3 章には学識経験者による意見を掲載いたしました。

報告書の作成にあたっては、地域住民等の意見を踏まえ、よりよい報告書の作成を目指して随時改善を図っていきたいと考えています。

平成 26 年 9 月

松島町教育委員会

関係法令

◎地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第 27 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 3 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

— 目 次 —

第1章 教育委員会議

| | |
|--|---|
| 教育委員会議，教育委員の研修 | 1 |
| 平成25年度松島町教育委員会基本方針・基本施策 (平成25年度「松島の教育」抜粋) | 4 |

第2章 平成25年度松島町教育の基本施策

| | |
|------------------------------|----|
| 1 幼児教育の充実 | |
| 1) 元気な松島っ子の育成 | 9 |
| 2) 幼保小中高の連携推進 | 10 |
| 3) 家庭の教育力の向上支援 ～家庭でつくる親子の時間～ | 11 |
| 4) 地域で支える子育て支援 | 12 |
| 2 学校教育の充実 | |
| 1) 児童生徒の学力向上 | 13 |
| 2) 夢と感動のある学校づくり | 18 |
| 3) 心身ともに健全な児童生徒の育成 | 22 |
| 4) 松島の歴史と文化を学ぶ活動の充実 | 28 |
| 5) まつしま防災学の強化 | 32 |
| 3 地域文化の継承と創造 | |
| 1) 歴史と文化と地域を学ぶ学習の推進 | 36 |
| 4 生涯学習の推進 | |
| 1) 地域で支える家庭教育 | 37 |
| 2) 芸術文化活動の推進 | 38 |
| 3) 国際感覚を培う生涯学習 | 39 |
| 5 町民総スポーツの推進 | |
| 1) スポーツをとおした地域間交流の推進 | 40 |
| 2) 体力づくりの推進 | 41 |
| 3) 観るスポーツの推進 | 42 |
| 4) スポーツをとおした心と体の健康 | 43 |

第3章 学識経験者による意見

| | |
|---|----|
| 平成26年度（平成25年度対象）松島町教育委員会教育行政点検評価報告書 についての意見書 | 44 |
|---|----|

教育委員会議、教育委員の研修

- ・地方自治法第 180 条の 5
- ・地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 15 条
- ・松島町教育委員会会議規則

事業目的と概要

松島町教育委員会は 5 人の委員で構成される。委員は人格が高潔で教育・学術及び文化に関し、識見を有する者で町長が町議会の同意を得て任命する。
 委員長は、委員の中から選挙され、教育委員会の会議を主宰し、委員会を代表する。
 教育長は、教育委員の中から教育委員会が任命し、教育委員会の指揮監督の下に教育委員会の権限に属するすべての事務をつかさどる。また、これらの事務を処理するために教育委員会に事務局が置かれ、松島町生涯学習基本方針に沿い、策定された松島町教育振興基本計画等の重点施策の執行及び管理を執り行う。

事業実施状況

- (1) 教育委員会定例会・臨時会
- ・会議の開催については、松島町教育委員会会議規則に基づき、定例会を毎月 1 回、最終水曜日を基本として 12 回開催した。
 - ・定例会は、議事日程に基づき行われ、一般事務報告では、教育委員会事務局及び教育機関の事務事業の状況を報告し、教育長報告では、宮城県仙台教育事務所管内教育長会議内容、町内定例校長会や教頭会での各学校との情報交換、諸問題解決のため指示・指導助言を行ったこと等の報告が行われた。
 - ・議事については、教育長に対する事務委任規則に基づき、教育委員会に案件を総数 35 件提出し、各教育機関からの報告等に対し、各教育委員による適切な審議を経て全議案が承認された。
 - ・臨時会は、教育委員長が必要に応じて招集するものであり、平成 25 年度においては、計 8 回開催した。臨時会における議案は 9 件提出し、全議案が承認された。
- ※平成 25 年度松島町教育委員会会議開催内容及び結果については、別表参照のこと。

(2) 教育委員会教育施設訪問及び研修等

- ・各教育委員が町内の教育施設を訪問し、施設ごとにおける事業の進捗状況や重点施策等の点検を行った。また、県教育委員協議会研修会や管内教育委員協議会研修会等に参加した。
- ・松島町教育委員会教育行政視察研修としては、福島県会津若松市教育委員会の視察を行った。

| | |
|----|--|
| 目的 | 會津藩校日新館・旧滝沢本陣等視察を視察することにより、当町の教育振興や国や市の指定重要文化財となっている文化財の保護の在り方についての方策の一助とする。 |
| 日程 | (1 日目) 會津藩校日新館・旧滝沢本陣等を視察 (2 日目) 平成 25 年度東北六州市町村教育委員会連合会教育委員・教育長研修会に参加 |

※平成 25 年度松島町教育委員会教育施設訪問及び研修等については、別表参照のこと。

事業の効果

- ・教育委員会の設置目的である教育、学術及び文化に関する事務を合議制の独立した執行機関としての役割を果たすことができた。
- ・研修としては、會津藩校日新館を視察することにより、会津藩の教育振興の取組が現代の教育振興にどう通じ反映することができるのか参考とすることができた。また、国指定の史跡及び重要文化財となっている旧滝沢本陣等を視察することにより、当町でも指定重要文化財となっている史跡等併せて国の保護の在り方について方策の一助とすることができた。

事業の課題・改善策

- ・教育委員会のさらなる活性化を図るため、定例会においては、課題や目標及び進捗状況等を詳細に説明し、適切な事務執行のため必要な案件を速やかに提出し、審議を諮っていききたい。
- ・学校等や生涯学習施設の訪問を充実し、所管する教育機関の事業実施状況を確認し、また、指導助言を行い、学校教育の充実と生涯学習の推進を図っていききたい。
- ・教育委員研修等を積極的に実施し、各教育委員が課題の把握や情報の共有に努め、松島町における教育の課題を明らかにしていききたい。教育委員会制度改革についての動向を踏まえた協議を行っていききたい。
- ・平成 25 年 3 月に策定された松島町教育振興基本計画の執行状況が確実に推進されるように管理を図っていききたい。

事業の方向性 継続 縮小 拡大 統合 廃止 変更 その他 ()

平成25年度松島町教育委員会 会議開催内容及び結果

| 会議種別 | 日時及び場所 | 案件 | 結果 |
|--------|------------------------------------|--|------------------------------------|
| 4月定例会 | 4月24日(水) 役場3階(旧庁舎) 第一委員会室 | 議案第1号 松島町文化財の指定(案)について 議案第2号 町長の権限に属する公有財産の権限換えの回答について 議案第3号 松島町学校評議員の委嘱(案)について 議案第4号 松島町スポーツ推進委員の委嘱(案)について 議案第5号 松島町社会教育委員の委嘱(案)について | 議案は原案どおり承認 |
| 5月定例会 | 5月28日(火) 役場3階(旧庁舎) 第一委員会室 | 議案第1号 6月定例会提出議案(教育費補正予算)について 議案第2号 議会全員協議会提出議案について (松島町中央公民館条例改正(案))について | 議案は原案どおり承認 |
| 6月定例会 | 6月27日(木) 役場2階(旧庁舎) 教育長室 | 報告事項のみ | |
| 7月臨時会 | 7月11日(木) B&G海洋センター ミーティングルーム | 議案第1号 平成26年度使用教科用図書採択計画等について | 議案は原案どおり承認 |
| 7月定例会 | 7月11日(木) B&G海洋センター ミーティングルーム | 議案第1号 教育委員会等への事務の委任及び補助執行に関することについて 議案第2号 7月定例会提出議案(教育費補正予算)について | 議案は原案どおり承認 |
| 7月臨時会 | 7月25日(木) 役場2階(旧庁舎) 教育長室 | 議案第1号 平成26年度使用教科用図書採の採択について | 議案は原案どおり承認 |
| 8月臨時会 | 8月28日(水) 役場3階(旧庁舎) 第一委員会室 | 議案第1号 教育委員会職員の任免内申について | 議案は原案どおり承認 |
| 8月定例会 | 8月28日(水) 役場3階(旧庁舎) 第一委員会室 | 議案第1号 松島町公民館条例の一部を改正する条例(案)について 議案第2号 松島町文化観光交流館の設置及び管理に関する条例の制定(案)について 議案第3号 海洋センターの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例(案)について 議案第4号 町長の権限に属する事務の委任について 議案第5号 9月定例会提出議案(教育費補正予算)について 議案第6号 9月定例会提出議案(教育費平成24年度決算)について | 議案は原案どおり承認 |
| 9月臨時会 | 9月26日(木) 役場3階(旧庁舎) 大会議室 | 議案第1号 松島町教育委員会委員長職務代理者の指定について 議案第2号 教育委員会職員の任免内申について | 議案は原案どおり承認 |
| 9月定例会 | 9月26日(水) 役場3階(旧庁舎) 大会議室 | 議案第1号 松島町文化観光交流館管理運営規則(案)の制定について 議案第2号 松島町公民館管理規則を廃止する規則(案)について 議案第3号 松島町海洋センター管理規則の一部を改正する規則(案)について 議案第4号 松島町教育委員会に係る規程等(案)について | 議案は原案どおり承認 |
| 10月定例会 | 10月23日(水) 文化観光交流館 応接室 | 報告事項のみ | |
| 11月定例会 | 11月25日(月) 役場3階(旧庁舎) 大会議室 | 議案第1号 平成24年度教育行政点検評価報告書(案)について 議案第2号 平成25年度教育課補正予算(案)について | 議案は原案どおり承認 |
| 12月定例会 | 12月25日(水) 役場3階(旧庁舎) 第一委員会室 | 議案第1号 松島町教育委員会事務決裁規定の一部改正(案)について 議案第2号 セクシュアル・ハラスメントの防止等に関する要綱の一部改正(案)について 議案第3号 松島町体力向上委員会設置要綱の一部改正(案)について 議案第4号 松島町学校給食センター運営審議会委員の委嘱(案)について 議案第5号 松島町勤労青少年ホーム運営委員会委員の委嘱(案)について | 議案第1・2・4・5は原案どおり承認 第3号議案は再審議となる |
| 1月定例会 | 1月30日(木) 役場3階303会議室 | 議案第1号 松島町社会教育委員の設置に関する条例の一部改正(案)について 議案第2号 松島町社会教育委員の会議運営規則の全部改正(案)について 議案第3号 松島町体力向上委員会設置要綱の一部改正(案)について 議案第4号 給食費の見直し(案)について | 議案は原案どおり承認 |
| 2月臨時会 | 2月17日(月) 役場2階教育長室 | 議案第1号 県費負担教職員管理職の任免内申について | 議案は原案どおり承認 |
| 2月定例会 | 2月24日(月) 役場3階302会議室 | 議案第1号 平成25年度教育課補正予算(案)について 議案第2号 平成26年度教育課当初予算(案)について | 議案は原案どおり承認 |
| 2月臨時会 | 2月24日(月) 役場3階302会議室 | 議案第1号 県費負担教職員管理職の任免内申について | 議案は原案どおり承認 |
| 3月臨時会 | 3月11日(火) 役場2階教育長室 | 議案第1号 県費負担教職員の任免内申について | 議案は原案どおり承認 |
| 3月臨時会 | 3月24日(月) 役場3階302会議室 | 議案第1号 教育委員会事務局職員及び教育機関の職員の任免について | 議案は原案どおり承認 |
| 3月定例会 | 3月24日(月) 役場3階302会議室 | 議案第1号 松島町町立学校の管理に関する規則の一部改正(案)について 議案第2号 松島町学校事務支援室運営規定(案)のについて 議案第3号 松島町文化観光交流館条例の改正に伴う規則、規定の改正(案)について | 議案は原案どおり承認 |

平成25年度松島町教育委員会 教育施設訪問及び研修等

| 日 時 | 行 事 名 | 場 所 |
|-----------------|---------------------------------------|--------------------|
| 4 月 1 日 (月) | 松島町立学校教職員宣誓式 | 松島町役場(旧庁舎)3階大会議室 |
| 4 月 9 日 (火) | 松島町立小・中学校入学式 | 松島町立各小・中学校 |
| 4 月 9 日 (火) | 松島町立幼稚園入園式 | 松島町立各幼稚園 |
| 4 月 24 日 (木) | 松島町文化財指定に係る文化財視察 | 観月楼・圓通院・大仰寺 |
| 5 月 7 日 (火) | 宮城県町村教育長会総会・研修会 | ホテル白萩 |
| 5 月 18 日 (土) | 松島町内各小学校運動会 | 松島第一小学校・松島第二小学校 |
| 5 月 25 日 (土) | 松島第五幼稚園・松島第五小学校運動会 | 松島第五幼稚園・松島第五小学校 |
| 5 月 28 日 (火) | 秋田県にかほ市教育委員会視察研修(教育懇談会) | 松島中学校 |
| 5 月 29 日 (水) | 秋田県にかほ市教育委員会視察研修(瑞巖寺等視察研修) | 瑞巖寺他 |
| 5 月 31 日 (金) | 平成25年度市町村教育委員会協議会定期総会 | 気仙沼市地域交流センター(大ホール) |
| 6 月 2 日 (木) | 第53回町民ふれあいスポーツ大会 | 松島フットボールセンター |
| 6 月 27 日 (木) | 松島町教育委員会学校訪問 | 松島第一小学校・松島第二小学校 |
| 6 月 27 日 (木) | 平成26年度用教科用図書展示会 | 多賀城市立多賀城小学校 |
| 7 月 4 日 (木) | 平成25年度仙台管内教育委員会協議会総会・研修会 | 岩沼市役所6階第1会議室 |
| 7 月 11 日 (木) | 松島町教育委員会移動研修(1日目) | 福島県会津若松市 |
| 7 月 12 日 (金) | 松島町教育委員会移動研修(2日目) | 福島県会津若松市 |
| 8 月 23 日 (金) | 松島町教育研究会後援会(教職員対象学力向上講演会) | パレス松洲 |
| 8 月 28 日 (水) | 松島町文化観光交流館改修工事視察 | 松島町文化観光交流館 |
| 9 月 7 日 (土) | 松島中学校運動会 | 松島中学校 |
| 9 月 20 日 (金) | 松島町防災マップ制作発表会 | 松島中学校 |
| 9 月 28 日 (土) | 松島第二幼稚園運動会 | 松島第二幼稚園 |
| 9 月 29 日 (日) | 松島町文化観光交流館 開館式 / オープニング記念式典 / 記念公演 | 松島町文化観光交流館 |
| 10 月 5 日 (土) | 松島第一幼稚園運動会 | 松島第一幼稚園 |
| 10 月 12 日 (土) | ルツェルン・フェスティバル・レセプション | アーク・ノヴァホール |
| 10 月 18 日 (金) | 人権啓発講演会 | 松島中学校 |
| 10 月 19 日 (土) | 小学校学習発表会 | 松島町立各小学校 |
| 10 月 20 日 (日) | 敬老会 | 松島町文化観光交流館 |
| 10 月 23 日 (水) | 松島中学校合唱コンクール | 松島町文化観光交流館 |
| 10 月 23 日 (水) | 町父母教師連合会との意見交換会 | 松島町文化観光交流館 |
| 10 月 31 日 (水) | 平成25年度仙台管内教育委員会協議会教育委員研修会 | 大郷町中央公民館 |
| 11 月 21 日 (木) | 宮城県仙台管内教育委員会協議会委員長部会研修会 | 亙理町悠里館 |
| 11 月 22 日 (金) | 宮城県町村教育長会研修会 | 宮城県自治会館 |
| 11 月 28 日 (木) | 宮城県教育委員会・市町村教育委員会教育懇話会全体会議 | 宮城県庁講堂 |
| 11 月 30 日 (土) | 松島第一幼稚園・松島第五幼稚園生活発表会 | 松島第一幼稚園・松島第五幼稚園 |
| 12 月 16 日 (月) | 平成24年度教育行政点検評価報告書議会提出 | 松島町役場(旧庁舎) 議事堂 |
| 1 月 10 日 (金) | 町民新年会 | ホテル松島大観荘 |
| 1 月 12 日 (日) | 第65回松島町成人式 | 松島町文化観光交流館 |
| 1 月 30 日 (木) | 宮城県市町村教育委員会協議会教育委員・教育長研修会 | ホテル白萩 |
| 2 月 25 日 (火) | 新任教育委員辞令交付式 | 松島町役場2階応接室 |
| 3 月 8 日 (土) | 松島中学校卒業式 | 松島中学校 |
| 3 月 14 日 (金) | 町立幼稚園卒園式 | 松島町立各幼稚園 |
| 3 月 19 日 (水) | 町立小学校卒業式 | 松島町立各小学校 |
| 3 月 31 日 (月) | 町立学校教職員離任式 | 松島町役場 |

平成25年度 松島町教育委員会基本方針・基本施策

本町の今後10年間の教育の理念と指針を定めた松島町教育振興基本計画に基づき、町民として日々成長する望ましい姿・めざす姿を実現するために以下の教育基本方針のもと、5つの基本施策及び重点事業を示し、町民の生涯学習の充実と進展を図るべく、松島の歴史と文化の継承と創造を推し進めるとともに「幼児教育・学校教育の向上」及び「地域や家庭における教育の再生と活性化」を達成する町民総参加型の教育振興を推進していく。

松島町教育振興基本計画の教育基本構想のめざす姿

『誇りと絆を育みしなやかに生きる松島人』

1 松島町の教育基本方針

「松島で生きて 松島を大切にし 豊かな心を育てる」

基本方針Ⅰ： 社会全体で協育し、笑顔あふれる松島人を育成する

基本方針Ⅱ： 学校・家庭・地域が協働し、夢と志を育み、しなやかに力強く
生き抜く松島人を育成する

基本方針Ⅲ： 松島の豊かな教育資源に学ぶ教育活動を推進し、郷土の景観に
誇りを持ち、新たな文化を創造する松島人を育成する

基本方針Ⅳ： 生涯にわたる学習・文化・スポーツ活動を推進し、健康で豊かな
人生を送れる松島人を育成する

2 松島町教育の基本施策

基本施策1：幼児教育の充実

『元気で伸び伸びとし、表現豊かな松島っ子の土台づくり』

1) 元気な松島っ子の育成

- ・ 幼児の身体能力向上（COT*¹や体づくり運動の活用、外遊びの推奨） 〈◎重点事業〉
- ・ 幼児教育環境の整備（**新規事業：第五幼稚園建設に向けた実施設計の実施**）
- ・ 基本的な生活習慣・食育・むし歯予防の推進
- ・ A L T*²による国際理解教育や読み聞かせ等情操教育の推進
- ・ 親子の心の健康をサポートする相談体制の充実

2) 幼保小中高の連携推進

- ・ 幼稚園・保育所・小学校等の相互の交流事業の実施 〈◎重点事業〉
- ・ 幼保合同の幼児教育の研究・開発と実践
- ・ 特別支援の早期体制づくりと連携による支援
- ・ 中学生・高校生等の保育ボランティア・保育体験の実施
- ・ まつしま防災学(幼児期)の推進
(小中学校や地域との協働による防災訓練・交通安全教育等の実施)

3) 家庭の教育力の向上支援 ～家庭でつくる親子の時間～

- ・ 親子ふれあいの推進のための啓発活動の実施 〈◎重点事業〉
家族の広場づくり（自然との触れ合い、遊び、家族会話等の広場）
- ・ 幼稚園・保育所・社会教育における親子行事・家庭教育と連携した事業の実施

4) 地域で支える子育て支援

- ・ 家庭・地域・社会教育等との協働による親子交流や子育て支援教育の連携の推進
(自然体験交流・地域の達人活用) 〈◎重点事業〉
- ・ 園児の預かり保育による子育て支援の継続実施
- ・ 家庭教育の支援・園庭開放・体験入園の実施
- ・ ごみゼロ運動や花いっぱい運動等の家庭や地域と協働による活動の推進

基本施策2：学校教育の充実

『未来の松島を担う、夢と志を持ち、誇りと自信に満ちた児童生徒の育成』

1) 児童生徒の学力向上

- ・ 個に応じたきめ細かな指導 〈◎重点事業〉
(少人数指導やT・T等の学習指導体制のための加配申請、特別支援補助員の配置、全国学力・学習状況調査と町統一学力テストを活かした指導の充実、幼小中の特別支援教育の連携推進等)
- ・ 家庭学習の習慣化
(家庭との協働による家庭学習習慣・読書習慣の育成、**新規事業：学び支援事業**の実施)
- ・ 学力向上推進体制の充実 〈◎重点事業〉
(松島町教育研究会・学力向上推進委員会・学び支援事業の協働による学力向上プラン)

の検討と実践)

- ・教職員研修の充実

(秋田県にかほ市との教育研修交流、校内研究の指導や学校支援のための研修会の検討と実施)

2) 夢と感動のある学校づくり

- ・児童生徒が主体的に協力と達成の喜びを体験できる教育活動の創造と支援

〈◎重点事業〉

(町立小学校合同の6年生交流事業、町立小学校6年生と松島中学校1年生の総合学習合同発表会の実施、中学生ホームステイ交流事業及び体験発表等の実施)

- ・郷土松島を素材とする歴史文化教育と豊かな自然に学ぶ教育の工夫と実践
(総合的な学習の時間における義務教育9年間を通じたカリキュラムの検討と実践)

〈◎重点事業〉

- ・異校種間の特徴を生かし、教職員相互の資質向上を目指す小中交流授業の企画と実施

- ・未来を志向した学校諸施設の充実とICT^{*3}等の教育設備の充実
(校務システムの年次導入)

- ・町内外の諸学校やアーティストとの交流活動の推進
(にかほ市立小学校や音楽・芸術団体等との交流の実施)

3) 心身ともに健全な児童生徒の育成

- ・子どもたちの安心・安全を守る取組の推進(いじめ・虐待・不登校・学校不適応・非行・自殺等の予防・心のケア等の相談や早期対応)〈◎重点事業〉

- ・体力の向上や健康増進に向けた方策の推進〈◎重点事業〉

(COTや体づくり運動、体力テストの活用、生活習慣・食育、むし歯予防の取組、
新規：松島中学校屋外運動場整備、人権啓発事業の実施)

- ・学校・家庭・地域が一体となった品性豊かな調和のとれた子育て活動の検討と実施
(あいさつ運動、道徳教育、伝統文化教育、読書活動の推進、家族の広場づくり推進
「circle of family 活動」)

- ・幼保小中高の連携の推進

- ・松島産米等のふるさと食材の活用、放射線検査実施による安全な給食の提供

4) 松島の歴史と文化を学ぶ活動の充実

- ・総合的な学習の時間の充実〈◎重点事業〉

(地域と協働し、松島の歴史や文化等を学ぶためのカリキュラムの作成と実践)

- ・キャリア教育、志教育の推進(小中高連携による検討・松島町内での職場体験学習)

- ・国際交流、地域間交流の推進

(ICTを活用した海外や秋田県にかほ市等との児童生徒間交流)

5) まつしま防災学の強化

- ・「自助」「共助」「公助」を基軸に据えた「まつしま防災学」の推進〈◎重点事業〉

(小学校・中学校の防災教育共通カリキュラムの作成、ライフライン、防災における
備蓄等についての学習)

- ・地域との協働による防災教育の実施

- ・安全な教育環境の整備と防災体制の整備(太陽光発電による緊急用電源設置)

基本施策3：地域文化の継承と創造

『歴史と文化を継承し、文化遺産の保護と活用を図った教育の推進』

1) 歴史と文化と地域を学ぶ学習の推進

- ・地域との協働によるふるさと体験型教育の推進 〈◎重点事業〉
- ・ふるさと松島の探究と新たな魅力の発見・発掘への取組
- ・地域の魅力ある文化、伝統の継承及び発信への支援
- ・特別名勝松島の景観保持と歴史文化遺産の文化財教育への活用
- ・町内地域ごとの歴史・文化史跡・名所等の確認調査及び集約
- ・歴史・文化遺産の調査及び整理・保護のための施設・設備上の工夫

基本施策4：生涯学習の推進

『協働による家庭教育、地域活動の推進』

1) 地域で支える家庭教育

- ・公民館・分館事業における協働による地域活動の推進 〈◎重点事業〉
- ・自主サークル育成への支援
- ・地域に根ざした世代間交流活動や青少年健全育成への取組と支援
- ・心の通い合う家庭づくりの啓発と子育て支援
- ・放課後の子どもの社会性を育む取組の推進
- ・地域との協働による地域交流センターの活用促進

2) 芸術文化活動の推進

- ・音楽や芸能等の芸術鑑賞、自主的な芸術活動の推進 〈◎重点事業〉
- ・芸術文化に関する展示や演奏会などの開催と国内及び国際交流事業の検討
- ・自主サークルの学習活動への支援
- ・社会教育施設の整備と運用の充実
- ・図書室機能の充実と読書活動の推進

3) 国際感覚を培う生涯学習

- ・歴史と文化、景観を松島に来て楽しむ交流活動の企画検討 〈◎重点事業〉
- ・松島の食文化などをとおしたあらたな国内及び国際交流活動の検討
- ・子どもたちの国際交流、地域間交流のあり方の検討
- ・ライフステージにおける各種学習事業の実施

基本施策5：町民総スポーツの推進

『スポーツをとおした町民の活力と地域の活性化』

1) スポーツをとおした地域間交流の推進

- ・分館活動等、地域協働による身近なスポーツの普及推進 〈◎重点事業〉
- ・スポーツをとおした他市町村との地域間交流の企画・推進
- ・従来からの夫婦町秋田県にかほ市との交流等各種スポーツ交流の推進

2) 体力づくりの推進

- ・COTの活用による子どもの体力向上の推進 〈◎重点事業〉
- ・体力づくりを推進する地域コーディネーターの育成
- ・スポーツ施設の効果的な活用による町民の健康増進

3) 観るスポーツの推進

- ・レベルの高いスポーツ大会の開催や招致の推進 〈◎重点事業〉
- ・一流アスリートの招致によるスポーツ教室等の開催
- ・子どもたちを主とした国際大会等の観戦事業の企画・検討

4) スポーツをとおした心と体の健康

- ・高齢者向けスポーツ教室の実施
- ・ウォーキング等推進のための環境づくりの推進

*¹ COT コーディネーショントレーニング《Co-ordination Training (COT)》は、運動の巧緻性を高めるトレーニングの一種であるが、巧緻性の運動そのものを獲得することではなく、運動学習の能力、つまり、「学ぶ力」を得ることに最大の目的を置いている。脳・身体への適切な感覚・運動刺激をどのようにして与えるかが、コーディネーショントレーニングにおける最大の課題であり、総合的な心身の発達に関連付けた教育の一環として位置付けられる。徳島大学大学院教授荒木秀夫

*² ALT 外国語指導助手 (Assistant Language Teacher の略) 日本人の教員を補佐し、主に会話の指導にあたる外国人補助教員。
出典：(株)三省堂『大辞林 第二版』

*³ ICT 情報通信技術 (Information and Communication Technology の略)。情報や通信に関連する技術一般の総称のことで、一般的には「情報通信技術」と訳されるが、文部科学省や教育の分野ではコンピューターやインターネットなどの「情報コミュニケーション技術」と訳されている。
出典：文部科学省ホームページ

基本施策1：幼児教育の充実

『元気で伸び伸びとし、表現豊かな松島っ子の土台づくり』

1) 元気な松島っ子の育成

- ・ 幼児の身体能力向上（COT や体づくり運動の活用，外遊びの推奨）（◎重点事業）
- ・ 幼児教育環境の整備（新規事業：第五幼稚園建設に向けた実施設計の実施）
- ・ 基本的な生活習慣・食育・むし歯予防の推進
- ・ ALT による国際理解教育や読み聞かせ等情操教育の推進
- ・ 親子の心の健康をサポートする相談体制の充実

事業目的と概要

◎心身ともに健康な幼児の育成

- ・ COT や戸外での運動遊びを通しての身体能力向上の充実
- ・ 健やかに子どもたちが成長できる環境整備と格差のない幼児教育が実践できる施設として新たに第五幼稚園を建設する。（平成 25 年度実施設計，平成 26 年度建設着工予定）
- ・ 給食指導及び栽培活動・虫歯予防指導を通じた食育の充実
- ・ ALT による国際理解教育や読み聞かせ等の読書活動の充実
- ・ 親子の心の健康をサポートする相談の充実

事業実施状況

- ・ 身体能力向上の充実として，講師及びライセンス取得保育者による COT を実施した。また，マリソルサッカー教室を実施した。
- ・ 平成 24 年度に向こう 3 年間の建築計画がまとまり，平成 25 年度に松島第五幼稚園建設実施設計業務を発注し，平成 26 年度建設工事発注に向け，平成 26 年 3 月に設計業務が完了した。
- ・ 給食指導では，町の栄養士や給食センターの栄養士による紙芝居や食材を用いた栄養指導を実施し，食べ物への興味関心を高めるために，給食センター・農協の指導の下に「にんじん・ごぼう」の栽培園庭を利用したサツマイモの栽培を実施した。また，給食の食べ方や食育の大切さを知らせるために保護者を対象とした栄養士による講話や給食の試食会を実施した。
- ・ 国際理解教育では，ALT との英語による遊びを通して，外国人 ALT と交流し，読書活動では，毎日の降園時に絵本や紙芝居の読み聞かせを各学級で実施した。また，ボランティアグループによる読み聞かせ・人形劇を実施した。
- ・ 幼児用図書を購入等を行い，読書活動の環境整備を行った。
- ・ 親子の心の健康をサポートする相談として，個人面談日を設定し申し出による相談に応じた。

事業の効果

- ・ 身体能力向上事業では，体を動かす楽しさを学んだことにより，普段から意欲的に遊ぶ姿が見られるようになった。
- ・ 園舎建設では設計業務が完了し，健やかに子どもたち成長できる環境整備を計画することができた。
- ・ 給食指導では，親しみながらの学びにより，食に関する興味関心を高めることができた。
- ・ 国際理解教育では，ALT との英語による遊びを通して，英語や外国人に慣れ親しむきっかけとなった。また，絵本の読み聞かせでは，多くの幼児が興味を持って集中して聞くことができるようになり，絵本の充実やボランティアの活用により，絵本や紙芝居に親しみ心豊かな幼児の育成につながった。
- ・ 親子の心の健康をサポートする相談としては，子育てへの不安や悩みを汲み取ることで保護者との信頼関係を深めることができた。

事業の課題・改善策

- ・ COT は，今後もライセンス取得者が中心となり，計画的・継続的に実施することが重要である。
- ・ 園舎建設では，幼稚園設置基準や幼稚園施設整備指針を遵守し，第五幼稚園建設については，幼児教育の北部拠点施設として，地域に根ざす災害にも強い建物として運営面にも配慮が必要である。
- ・ 食育は，時代のニーズに応じ，必須の教育として取り組んでいきたい。
- ・ 国際理解教育では，ALT の活用回数を増やし，さらに英語や外国人に慣れ親しむきっかけとしていきたい。また，町内のボランティアによる絵本の読み聞かせ等を活用していきたい。
- ・ 親子の心の健康をサポートする相談は，今後も親のニーズに合わせた子育てサポートに務めたい。

事業の方向性 継続 縮小 拡大 統合 廃止 変更 その他（ ）

基本施策1：幼児教育の充実

『元気で伸び伸びとし、表現豊かな松島っ子の土台づくり』

2) 幼保小中高の連携推進

- ・幼稚園・保育所・小学校等の相互の交流事業の実施（◎重点事業）
- ・幼保合同の幼児教育の研究・開発と実践
- ・特別支援の早期体制づくりと連携による支援
- ・中学校・高校生等の保育ボランティア・保育体験の実施
- ・まつしま防災学（幼児期）の推進
（小中学校や地域との協働による防災訓練・交通安全教育等の実施）

事業目的と概要

- ◎各幼稚園間及び保育所、小学校、中学校、高等学校との連携推進
- ・各幼稚園間の定期的相互交流保育、及び行事等の保育所・小学校との合同開催の充実
- ・幼保合同の教育に対する共通理解の推進
- ・地域の各種機関、団体との密接な連携及び特別支援の体制づくりの充実
- ・町内中学校、高等学校の職場体験の受け入れと交流
- ・防災安全に対する実施体制への整備の充実と安全管理の徹底

事業実施状況

- ・町内幼稚園3園の親子が集まり、講師を招いての「親子ふれあいコンサート」を実施した。
- ・幼稚園から小学校へスムーズに移行できるよう合同で行事や園児児童の交流、職員間の連携に取り組み、保育所との連携としては、第一幼稚園では「なつまつり」に松島保育所の4・5歳児を招き交流し、第二幼稚園では、高城保育所分園の4・5歳児と園児が8:30～11:30までの3時間、合同幼児教育を実施した。第二幼稚園は、行事のほとんどを合同で開催した。
- ・特別支援児巡回相談で臨床心理士や保健師に幼児の実態を見てもらい、支援の手立てについて指導を受けた。また、小学校や子育て支援センターの保健師、臨床心理士や児童相談所と連携し、個別支援を実施した。さらには、特別支援連携協議会で幼・保・小の各機関の現状と記録の作成・活用方法について検討した。
- ・地震や津波、火災想定避難訓練（小学校・中学校等と合同）や不審者対応訓練を実施し、避難時の原則を紙芝居や絵本を通し指導した。また、消防署員による防災教室、交通安全指導隊による交通安全教室を実施した。

事業の効果

- ・「親子ふれあいコンサート」を実施したことにより、親子の触れ合いと他園の親子との交流が図られ、小学校との合同行事では幼児も楽しんで参加する姿が見られ、幼小連携の一環となった。
- ・授業や保育の相互参観や学校探検、特別支援連携協議会での話し合いなどにより、幼稚園から小学校へのスムーズな移行を図ることができた。
- ・気になる幼児の保護者と臨床心理士・保健師・保育者の三者で話し合い、相互理解が図られた。
- ・特別支援を要する園児に個別支援を充実したことで、安全に発達支援を実施することができた。
- ・避難訓練及び不審者対応訓練では、敏速に行動する姿が見られ、緊急時の対応への意識を高めることができた。
- ・避難時の原則「おさない・はしらない・しゃべらない・もどらない」が定着してきた。

事業の課題・改善策

- ・「ふれあいコンサート」については園児への意欲付け等の内容を検討しながら期日や日程を調整していく必要がある。
- ・幼稚園と小学校の円滑な連携に向け、双方の学びが成り立つような交流の在り方を探り、互いの教育内容の理解を深め、計画的に子どもの育ちを支援していきたい。
- ・魅力的な幼児教育プログラム作りについて、幼稚園・保育所職員全員が協同で検討するとともに、合同行事についても連携に十分な打ち合わせをしながら継続していく。
- ・保護者にとっては発達障害を受け止められないことが多いので、子どもだけでなく保護者の心理も考慮し、個別指導が必要な幼児に対する理解を得られるようにしていきたい。
- ・避難訓練については、小・中学校等と連携し継続して実施していくため、幼稚園としての課題を明確にし、指導方法や避難場所を今後も検討していきたい。
- ・幼児期の防災教育の一環として、今後も絵本や紙芝居、映像を通して災害の怖さを伝え、避難の方法や必要性を繰り返し指導し、保護者にも協力を得て具体的に動けるようになるまで継続して実施していきたい。
- ・緊急連絡方法について、定点掲示物の利用など保護者とともに再度確認をしていきたい。

事業の方向性 継続 縮小 拡大 統合 廃止 変更 その他（ ）

基本施策1：幼児教育の充実

『元気で伸び伸びとし、表現豊かな松島っ子の土台づくり』

3) 家庭の教育力の向上支援 ～家庭でつくる親子の時間～

- ・親子ふれあいの推進のための啓発活動の実施（◎重点事業）
 家族の広場づくり（自然との触れ合い、遊び、家族会話等の広場）
- ・幼稚園・保育所・社会教育における親子行事・家庭教育と連携した事業の実施

事業目的と概要

- ◎家庭の教育力の向上支援を図る
 - ・親子のかかわり方についての支援の充実
 - ・家庭と連携した親子行事の充実

事業実施状況

- ・さまざまな教育機関からの刊行物（子育て・食育等）の配布を実施
- ・参観日等を利用して、子育てのあり方の講話を実施
- ・参観日において、親子ふれあいのプログラムの実施
- ・「親子ふれあいコンサート」「親子遠足」の実施

事業の効果

- ・親子でのものづくりや話題づくりのきっかけができた。
- ・家族間のかかわり方を改めて知るきっかけ作りとなった。
- ・親子でスキンシップができる活動を多く取り入れることにより、関係の深まりが見られるきっかけとなった。
- ・コンサートや遠足に参加することで、親子で楽しい時間を過ごすことができた。

事業の課題・改善策

- ・親子のかかわり方について、刊行物の利用の他、園便り等の内容も再検討し、今後も発信を継続していく。
- ・親子行事について、より良い内容となるように職員間で話し合い進めていきたい。

事業の方向性 継続 縮小 拡大 統合 廃止 変更 その他（ ）

基本施策1：幼児教育の充実

『元気で伸び伸びとし、表現豊かな松島っ子の土台づくり』

4) 地域で支える子育て支援

- ・家庭・地域・社会教育等との協働による親子交流や子育て支援教育の連携の推進（自然体験交流・地域の達人活用）〈◎重点事業〉
- ・園児の預かり保育による子育て支援の継続実施
- ・家庭教育の支援・園庭開放・体験入園の実施
- ・ごみゼロ運動や花いっぱい運動等の家庭や地域と協働による活動の推進

事業目的と概要

◎子育て支援・家庭教育の充実

- ・親子交流や子育て支援教育の連携の充実
- ・園児の預かり保育の継続と充実
- ・保護者のニーズを踏まえた降園後の園庭の開放などの子育て支援の実施
- ・環境美化に対する意識を高める。

事業実施状況

- ・園外保育で近隣の施設や町民の森の散策を実施した。
- ・運動会などにおける保護者、祖父母、来賓、未就園児等参加のプログラムを実施した。
- ・保護者の実情に合わせた預かり保育の実施

| 預かり保育事業 | 利用実人員 | 延利用人数 | 利用事由 |
|---------|-------|-------|--|
| 松島第一幼稚園 | 29人 | 79人 | ・学校行事 (授業参観, PTA 役員会, 懇談会) ・健診, 通院, 介護等 ・交通事情等 ・冠婚葬祭 |
| 松島第二幼稚園 | 16人 | 41人 | |
| 松島第五幼稚園 | 8人 | 36人 | |

- ・幼稚園降園後、園庭開放を行い保護者の情報交換、異年齢の子ども達の遊び場の提供を行った。
- ・次年度入園予定者について一日入園を実施した。
- ・保護者の協力による年間2回の奉仕作業を実施し、園庭周辺の環境整備を行った。
- ・子ども子育て支援法施行に向けて幼保職員合同の情報交換・研修会を実施した。

事業の効果

- ・運動会などにおける保護者、祖父母、来賓、未就園児等参加は保護者から好評で継続してほしいとの声が聞かれ、保護者や地域の方の交流の場となった。
- ・預かり保育の実施を行い、保護者に多く利用された。
- ・幼稚園降園後、園庭開放を行うことにより、保護者間の情報交換・連携が見られるようになった。
- ・「幼稚園の保育に関するアンケート」では、3歳児保育の要望等の保護者の率直な幼稚園に対する意見を聞くことができた。子ども子育て支援法施行に向けて幼保職員の合同研修により情報の共有化が図られた。
- ・個人面談を実施し、保護者の悩みや思いを聞き保育活動に役立てることができた。
- ・保護者による奉仕作業を通し、幼児の環境美化に対する意識が高まった。

事業の課題・改善策

- ・園行事等の保護者の参加・自然体験への取り組み等の内容を再検討し、日々の保育に生かしていきたい。
- ・預かり保育は職員の会議・研修等により体制が整わず実施できない日があり、保護者の要望に応えられない場合があるため、検討が必要である。
- ・園庭開放などの子育て支援においては、保護者の意見に添えないものがあり、少しずつでも理解してもらえようとする説明の場を設ける必要がある。また、アンケートの結果を踏まえ、保護者の意見を参考に、改善できるところは直し、今後の子育て支援につなげていけるよう保育活動に当たっていききたい。
- ・保護者による作業の姿が幼児に大きな影響を与えることを生かし、幼児の発達に合わせた栽培活動や、環境美化活動への参加の仕方を再検討し、保育に取り入れていきたい。
- ・子ども子育て支援法の施行に向けて、保護者の要望を大切にしながら研修や体制づくりを行っていく。

事業の方向性 継続 縮小 拡大 統合 廃止 変更 その他（ ）

基本施策2：学校教育の充実

『未来の松島を担う、夢と志を持ち、誇りと自信に満ちた児童生徒の育成』

1) 児童生徒の学力向上

- ・個に応じたきめ細かな指導（◎重点事業）
（少人数指導や TT 等の学習指導体制のための加配申請，特別支援補助員の配置，全国学力・学習状況調査と町統一学力テストを活かした指導の充実，幼小中の特別支援教育の連携推進等）
- ・家庭学習の習慣化
（家庭との協働による家庭学習習慣・読書習慣の育成，新規事業：学び支援事業の実施）
- ・学力向上推進体制の充実（◎重点事業）
（松島町教育研究会・学力向上推進委員会・学び支援事業の協働による学力向上プランの検討と実践）
- ・教職員研修の充実
（秋田県にかほ市との教育研修交流，校内研究の指導や学校支援のための研修会の検討と実施）

事業目的と概要

- ◎児童の学習意欲を高め，学ぶ喜びを体感する場をつくり，学習における基礎・基本を確実に身に付けられるように学力向上支援体制を整備する。
- ・県教委に対して少人数指導加配や教科別指導加配を申請するとともに，各小中学校に教育補助員（教員免許を有する特別支援教育補助員等）を配置し，少人数指導や特別支援体制の充実を図る。
- ・新規事業として文科省の被災地の学び支援コーディネーター等配置事業委託を受け，「松島町学び支援事業」に取り組み，自主的な学習習慣の形成と家庭学習の習慣化を図る。
- ・学力向上推進体制の充実を目的に，学力向上推進委員会を中心とした町内推進体制づくりに取り組み，教職員対象教育講演会や秋田県にかほ市との教育交流を実施する。

事業実施状況

- ・学び支援事業では，4月に学び支援コーディネーターや学び相談員による秋田県にかほ市教育委員会視察，松島町内の小中学校訪問を実施し，児童生徒の自主学習支援の体制を整備した。
【実施内容】各小学校：各校週2回ずつの学び支援教室（昼休み～放課後）及びサマースクール支援を実施 計203回 延べ5,864人の児童が参加
中学校：学びの相談室として平日毎日実施，サマースクール支援と併せて計142回 延べ1,181人の生徒が参加
- ・学力向上施策として，学力向上推進委員会委員による秋田県にかほ市の小中学校公開研究授業を視察し，先進地の取組を研修した。また，町内各校の校内研究や指導主事訪問時に相互に視察する機会を設け，「児童生徒理解」について宮城教育大学准教授による講演会等開催し教職員の資質向上，研修充実に努めた。
- ・教職員の指導時間確保と学校事務効率化を目的に，先進地視察を行い学校事務共同実施に取り組んだ。

事業の効果

- ・県教委の加配教職員及び町配置の補助員の配置により，各校において実施した少人数・TT指導は，理解度を把握しやすく，個に応じた指導ができる機会として，効果があった。
- ・教育講演会やにかほ市教育委員会の公開授業視察の研修，町内各校の授業実践，学年別到達度テストや全国学力状況調査結果を通しての手だての検証は，指導法の開発改善に繋げることができた。
- ・新規事業として実施した学び支援事業では，各学校や家庭の協力もあり，小中学校合計で345回，延べ7,045人の児童生徒の参加がみられ，児童生徒や保護者に大変好評であった。学ぶ児童生徒から「繰り上がりが見えた」「漢字検定でほめられた」「割引がわかると買い物に便利だと理解できた」等との「分かる喜び」の声が多く聞かれた。
- ・学校事務共同実施の取組により，学校事務について学校間の共通認識，情報の共有化が図られた。

事業の課題・改善策

- ・学び支援事業は家庭学習習慣形成，自主的な学習習慣形成を目的としているが，小学校では宿題を学びの教室内で終わらせようとする児童が多く，高学年は放課後の時間が少ないことから参加しにくいといった課題もみられたため，「家庭学習の手引き」を各家庭に周知し，家庭においても協働で取り組む習慣作りに力を入れて行く。中学校では，不登校傾向の生徒への個別支援が課題であり，次年度において体制づくりを検討する。
- ・学力向上委員会では，学ぶ姿勢づくりと基本的な学ぶ準備を，各校で同じように取り組んでいくよう次年度に向けて引き続き協議していく。教育研修やにかほ市との教育交流，各校の校内研究の継続実施により，町全体の共通課題に協力して取り組む体制を充実していく。
- ・教職員の指導時間確保と学校事務効率化，学校間連携を充実するため学校事務共同実施を継続していく。

事業の方向性 継続 縮小 拡大 統合 廃止 変更 その他（ ）

基本施策2：学校教育の充実

『未来の松島を担う、夢と志を持ち、誇りと自信に満ちた児童生徒の育成』

1) 児童生徒の学力向上

- ・個に応じたきめ細かな指導（◎重点事業）
（少人数指導や TT 等の学習指導体制のための加配申請，特別支援補助員の配置，全国学力・学習状況調査と町統一学力テストを活かした指導の充実，幼小中の特別支援教育の連携推進等）
- ・家庭学習の習慣化
（家庭との協働による家庭学習習慣・読書習慣の育成，新規事業：学び支援事業の実施）
- ・学力向上推進体制の充実（◎重点事業）
（松島町教育研究会・学力向上推進委員会・学び支援事業の協働による学力向上プランの検討と実践）
- ・教職員研修の充実
（秋田県にかほ市との教育研修交流，校内研究の指導や学校支援のための研修会の検討と実施）

事業目的と概要

- ◎児童の学習意欲を高め，学習における基礎・基本を確実に身に付けさせ，学力向上を図る。
- ・教師の指導力アップのために校内研究を推進し，「自分の思いを表現できる児童の育成」を目指した教科指導法の開発を図る。また，学力向上サポートプログラム事業を活用し，年3回の研究授業及び事後検討会を実施する。さらには，教授システムを工夫し，少人数指導や TT 指導，教科担任指導の効果的な活用を図る。
- ・児童の学力向上のために，基本的な生活習慣の確立（「松一小生活のきまり」の徹底），学力テストの実施（児童の実態把握），学習習慣の徹底（月ごとの学習目標の設定），学習タイムの充実（朝活動の充実），個に応じた指導の充実（通級指導の充実）に努める。

事業実施状況

- ・校内研究の推進では，研究主題を「自分の思いを表現できる児童の育成」とし，国語科における書く活動の指導（1年次／3年）を実施した。学力向上サポート支援事業として，年3回の研究授業（2・4・6年）を実施し，事後検討会を行った。また，教授システムの工夫として，算数科少人数指導（4・5・6年），教科担任制（4・5・6年理科専科），補助支援員によるサポートを実施した。
- ・基本的な生活習慣の確立では，生活の基盤となる「生活のきまり」を全校で共通理解の上，児童に身に付けさせる生活習慣の定着に努めた。また，学習習慣の徹底として，毎月，児童の実態や課題を踏まえた学習指導目標を設定し，月末に児童と教師の相互評価を行い，児童の学習習慣の定着を促した。
- ・学力テストは，2～6年生を対象とし，児童の実態を把握し，課題の洗い出しと改善への取り組みを行った。学習タイムの充実として，朝の活動における国語・算数の習熟と読書の励行を促し，個に応じた指導の充実として，サマースクール（夏休み中の3日間，2年生以上の児童対象）の実施と通級指導教室の充実に努めた。

事業の効果

- ・校内研究では，年6回の授業実践を通して手だての検証を行い，指導法の開発・改善につなげることができた。また，学力向上サポートプログラム事業としては，年3回の研究授業に対しワークショップ型の検討会を実践したことで校内研究のさらなる充実を図ることができた。
- ・少人数・TT指導は，理解度を把握しやすく，個に応じた指導ができる機会を設けることができた。また，教科担任制は，複数の教師とのかかわりや教師の専門性を生かすことができ，児童の学習意欲の向上につながった。
- ・学力テストでは，児童の実態を客観的に把握することで教師の指導法改善にも効果があり，基本的な学習習慣に必要な指導内容を検討し，学習指導目標を設定したことで習慣化が見られた。
- ・朝活動の指導は「確かな学力」と「読書習慣」の定着につながり，夏休みの学習会については，児童一人一人に対して個に応じた指導を行う時間確保という点で有効だった。

事業の課題・改善策

- ・家庭学習に関しては，意欲や内容の面で児童の個人差が大きく，今後も児童や保護者に対して啓発を図る工夫が必要である。
- ・校内研究を継続して推進し，個々の教師が児童の学力向上のための指導法を工夫していく。
- ・「家庭学習の手引き」について，児童への声がけと指導を行うとともに，町で作成した「家庭学習の手引き」を活用しながら懇談会などで保護者に対して家庭学習の重要性について説明し啓発を図っていく。
- ・通級指導担当の教師を中心に，補助支援員と協力して特別に支援が必要な児童に対する指導をさらに工夫していく。

事業の方向性 継続 縮小 拡大 統合 廃止 変更 その他（ ）

基本施策2：学校教育の充実

『未来の松島を担う、夢と志を持ち、誇りと自信に満ちた児童生徒の育成』

1) 児童生徒の学力向上

- ・個に応じたきめ細かな指導（◎重点事業）
（少人数指導や TT 等の学習指導体制のための加配申請，特別支援補助員の配置，全国学力・学習状況調査と町統一学力テストを活かした指導の充実，幼小中の特別支援教育の連携推進等）
- ・家庭学習の習慣化
（家庭との協働による家庭学習習慣・読書習慣の育成，新規事業：学び支援事業の実施）
- ・学力向上推進体制の充実（◎重点事業）
（松島町教育研究会・学力向上推進委員会・学び支援事業の協働による学力向上プランの検討と実践）
- ・教職員研修の充実
（秋田県にかほ市との教育研修交流，校内研究の指導や学校支援のための研修会の検討と実施）

事業目的と概要

- ・少人数加配や通級加配，特別支援補助員の配置を生かした少人数指導や通級指導を通じた個に応じた指導の充実を図る。
- ・「学力検査の結果と対策」と「家庭学習の手引き」を配付するとともに，ノーゲーム等の呼びかけを PTA と協力して行い，家庭との連携を通して家庭学習の習慣化を図る。
- ・校内研究で研究教科を国語科にし，「書くこと」を中心とした国語力の向上に取り組む。また，ぐんぐんタイムや学び支援事業との協働した放課後学習やサマースクールを実施する。
- ・秋田県にかほ市との教育研修交流を実施する。

事業実施状況

- ・3年生及び1年生を中心に少人数指導を実施。また，特に個別に支援が必要な児童に対し，通級指導や特別支援補助員による支援を行った。
- ・家庭訪問時に「学力検査の結果と対策」を，入学時に松島町版の「家庭学習の手引き」を，各学年に二小版「家庭学習の手引き」を配付した。また PTA と協力して「ノーゲーム&減テレビデー」&お手伝いの呼びかけを行った。
- ・すべての普通学級の担任が研究授業を行った。また，授業研究部・資料調査部に分かれ文献研修やワークシート等の開発，実態調査の実施と分析を行うとともに，日々の授業実践に取り組んだ。
- ・ぐんぐんタイムでは，放課後の個別学習を希望する児童に対して，児童一人一人の実態に応じた学習に取り組ませた。
- ・学び支援事業による放課後教室やサマースクール（松っこ学級）では，希望する児童に宿題やプリント学習に取り組ませた。
- ・研究主任及び事務職員が秋田県にかほ市に行き，教育研修交流を行った。

事業の効果

- ・少人数指導及び個別の支援により，児童が落ち着いて学習に取り組むようになってきた。
- ・CDT 学力検査の結果をみると，少しずつではあるが学力向上の結果が表れた。また，家庭との連携による働きかけにより，テレビやゲーム時間が減ったり，進んで家庭学習に取り組もうとしたりする態度が見られるようになった。
- ・「書くこと」の中で交流の場を意図的に設け，その機会を継続的に行うことで書くことに関しての意欲が高まり，また，児童が書いた文章を校内で紹介し掲示することによって，発表した児童にもさらによい文章表現をしようと努力する姿が見られるようになった。
- ・ぐんぐんタイムでは，個別の学習課題に取り組ませ，個々の課題の解決につながった。
- ・松っこ学級では，子どもの興味を引くような手立てを講じたことにより，進んで学習に取り組む姿と向上しようとする意欲が見られるようになった。
- ・にかほ市との教育研修交流を通して，学力向上に効果があった。

事業の課題・改善策

- ・CDT 学力検査は，児童の実態把握及び指導に大変有効であった。その結果を生かした取り組みをさらに工夫していきたい。
- ・「書くこと」の内容をさらに系統的に指導できるよう，校内研究によって有効性が確認できた方策を日常の学習活動で実践していきたい。
- ・にかほ市との交流を子どもたちの学力向上に直結できるよう工夫していく。特に，院内小学校との継続的なかわりを工夫し，広がりや深まりのある交流ができるよう努めていきたい。

事業の方向性 継続 縮小 拡大 統合 廃止 変更 その他（ ）

基本施策2：学校教育の充実

『未来の松島を担う、夢と志を持ち、誇りと自信に満ちた児童生徒の育成』

1) 児童生徒の学力向上

- ・個に応じたきめ細かな指導（◎重点事業）
（少人数指導や TT 等の学習指導体制のための加配申請，特別支援補助員の配置，全国学力・学習状況調査と町統一学力テストを活かした指導の充実，幼小中の特別支援教育の連携推進等）
- ・家庭学習の習慣化
（家庭との協働による家庭学習習慣・読書習慣の育成，新規事業：学び支援事業の実施）
- ・学力向上推進体制の充実（◎重点事業）
（松島町教育研究会・学力向上推進委員会・学び支援事業の協働による学力向上プランの検討と実践）
- ・教職員研修の充実
（秋田県にかほ市との教育研修交流，校内研究の指導や学校支援のための研修会の検討と実施）

事業目的と概要

- ◎学習指導法の改善を図り，一人一人の児童が意欲的に学習に取り組み，学ぶ力を獲得できる能力の育成に努める。
- ・校内研究において，国語科における①読む力を育てるための学習過程の工夫，②単元を貫く言語活動の取り入れ方の工夫の2点を視点とした授業づくりを進める中で，授業改善を図り，生き生きと学習に取り組む子どもの育成を目指す。
- ・学力調査等の結果を分析し，学校全体の課題と対策を共有し，実践を進めることで改善を図る。また，個々の課題と対策についても明確にして実践を進める。
- ・「家庭学習の手引き」の効果的活用，「ノーテレビ・ノーゲームデー」（毎週火曜日）の実施，「家庭学習強調週間」（年3回）の実施などを通じて，家庭学習の習慣化の徹底を図る。

事業実施状況

- ・校内研究（国語科）を核として，特に単元を貫く言語活動の取り入れについての研究に重点を置いて実践を積み重ね授業改善を図った。
- ・学力調査等の結果の分析により明らかになった「読解力」を高めていくため，国語科以外の教科等においても「言語活動の充実」を重視して指導を進めた。
- ・家庭訪問や教育相談，学級懇談，学校・学級だより等を通じて，家庭学習の重要性を啓発したり，「ノーテレビ・ノーゲームデー」，「家庭学習強調週間」を実施し，家庭と連携しながら家庭学習の習慣化を図った。

事業の効果

- ・国語科における物語文や説明文における指導では，単に記述内容の「読み取り」ではなく，単元計画の終末の言語活動に向けて「手段」としての扱いが「読み取り」であるという考え方への理解が深まった。また，「単元を貫く言語活動」をどう取り入れるべきかについての理解が深まり，根本的な授業改善が見られた。
- ・「書くことで考えをまとめる」，「書いて表現する」等，「書くこと」を重視した活動を各教科・領域で実践を進めてきたことで，「書くこと」に対する抵抗が少なくなってきた。
- ・教育相談においては，限られた時間ではあったが，個々の児童の課題と対策を明確にして面談を行い，「家庭学習強調週間」の取組の様子や「生活アンケート」の結果を家庭に周知した。これらの取組により，家庭学習の時間について改善が見られ，家庭での学習時間（24年度との比較）は，①「全然（学習）しない～30分未満」（22.2%→14.0%），②「30分以上2時間未満」（74.1%→84.8%）のように成果が明確に表れてきた。

事業の課題・改善策

- ・国語科では，授業改善につながった「単元を貫く言語活動」の取り入れ方について，継続して指導に生かすとともに，国語科以外の教科・領域でも「言語活動の充実」を重視した実践を積み重ねていき，児童の「読解力」を高めていきたい。
- ・家庭学習の習慣化については，取り組む時間について改善が見られたので，今後は取り組み方や取り組みの内容に重点を置き，改善を図っていく。

事業の方向性 継続 縮小 拡大 統合 廃止 変更 その他（ ）

基本施策2：学校教育の充実

『未来の松島を担う、夢と志を持ち、誇りと自信に満ちた児童生徒の育成』

1) 児童生徒の学力向上

- ・個に応じたきめ細かな指導（◎重点事業）
（少人数指導や TT 等の学習指導体制のための加配申請，特別支援補助員の配置，全国学力・学習状況調査と町統一学力テストを活かした指導の充実，幼小中の特別支援教育の連携推進等）
- ・家庭学習の習慣化
（家庭との協働による家庭学習習慣・読書習慣の育成，新規事業：学び支援事業の実施）
- ・学力向上推進体制の充実（◎重点事業）
（松島町教育研究会・学力向上推進委員会・学び支援事業の協働による学力向上プランの検討と実践）
- ・教職員研修の充実
（秋田県にかほ市との教育研修交流，校内研究の指導や学校支援のための研修会の検討と実施）

事業目的と概要

- ・個に応じたきめ細やかな指導の推進
- ・家庭学習の習慣化
- ・教員の資質向上

事業実施状況

- ・TT 指導，習熟度別指導による個を重視した授業を実施した。
- ・中1英の TT として学習支援員を活用した。
- ・基礎的基本的学習内容の定着を目指した「progress タイム」と「サマースクール」を実施した。
- ・「家庭学習計画表」と「家庭学習の手引き」の作成・活用と毎日の数学プリント学習（宿題）を実施した。
- ・朝読書の実施と「図書たより」等による読書活動の啓発を行った。
- ・授業研究を中心とした校内研修を実施し，授業力の向上に努めた。
- ・にかほ市の授業研究会に教員が参加し研修を行った。

事業の効果

- ・複数教員による指導形態や学習支援員の補助により，特に，学習内容の理解や習得に難のある生徒に対する支援が可能になった。
- ・「progress タイム」の実施により，1 週間の家庭学習の定着を図ることができた。
- ・サマースクールでは自学学習の定着を支援することができた。
- ・個人ごとの計画表を作成することによって，学ぶ習慣や学び続ける態度が育ってきた。
- ・保護者対象のアンケートでは，
 - ①「学校は分かりやすい授業や学習習慣形成への指導を行い学力向上に努めている」について，「そう思う」「だいたいそう思う」の割合が，24 年度 83%，25 年度 82%とほぼ同じであった。
 - ②「家庭学習計画表や家庭学習課題の活用は生徒の学習習慣の形成に役立っている」について，「そう思う」「だいたいそう思う」の割合が，24 年度 65%，25 年度 75%と増加した。

事業の課題・改善策

- ・「学力向上」に向け，教員がお互いの授業を見合える機会を増やすとともに，各自 1 回は研究授業を行い授業力の向上を図る。
- ・TT や少人数学習の展開により，個に応じた指導をさらに深める。
- ・学び支援コーディネーター等の活用など，組織化を図る。

事業の方向性 継続 縮小 拡大 統合 廃止 変更 その他（ ）

基本施策2：学校教育の充実

『未来の松島を担う、夢と志を持ち、誇りと自信に満ちた児童生徒の育成』

2) 夢と感動のある学校づくり

- ・児童生徒が主体的に協力と達成の喜びを体験できる教育活動の創造と支援（◎重点事業）
（町立小学校合同の6年生交流事業、町立小学校6年生と松島中学校1年生の総合学習合同発表会の実施、中学生ホームステイ交流事業及び体験発表等の実施）
- ・郷土松島を素材とする歴史文化教育と豊かな自然に学ぶ教育の工夫と実践
（総合的な学習の時間における義務教育9年間を通じたカリキュラムの検討と実践）（◎重点事業）
- ・異校種間の特徴を生かし、教職員相互の資質向上を目指す小中交流授業の企画と実施
- ・未来を志向した学校諸施設の充実とICT等の教育設備の充実（校務システムの年次導入）
- ・町内外の諸学校やアーティストとの交流活動の推進
（にかほ市立小学校や音楽・芸術団体等との交流の実施）

事業目的と概要

- ・幼・保・小・中・高の連携と指導の充実、次世代育成計画の活用と推進を図る。
- ・異学年集団による活動を創意工夫を生かし、自主的・自発的に行いながら、学年を超えた縦のつながりを深め、互いに協力し、楽しく豊かな生活が送れるような活動に努める。
- ・学校行事への幼稚園の参加（運動会・避難訓練）や幼稚園・保育所との連絡会、小1との交流会、中学校との連絡会、小6中1学習交流事業を実施し、個別支援を要する児童等への対策として、特別支援教育連絡協議会に参加し、情報の収集と取り組み方法等を検討する。

事業実施状況

- ・幼稚園・小学校の教員による相互授業参観、幼稚園・保育所との連絡会を実施した。また、次年度入学予定の子どもたちの様子を聞き、幼稚園・保育所と連携を図り、入学説明会を実施した。
- ・中学校との連絡会では、卒業児童について中学校へ引継ぎ等を行い、中学校との連携を図った。また、入学式までの日程について確認し、入学説明会を実施した。
- ・幼稚園・保育所との交流活動を設定し、11月16日に幼稚園児が学校を訪れ、「あそびまつり」を開催した。また、2月22日に幼稚園と保育所の幼児が学校を訪問し、授業の様子を見学した。
- ・小6中1学習発表交流会では、小6児童と中1生徒が総合学習の発表をし合い交流した。
- ・特別支援教育連絡協議会では、個別支援を要する幼児・児童・生徒の共通理解を図り、各学校間の情報交換を行った。

事業の効果

- ・幼稚園・保育所との連絡会は、昨年度入学した児童の様子を知らせることで、今後の指導に生かせる情報交換ができた。また、次年度入学予定の幼稚園・保育所などの様子を聞くことで、学級編成及び生活指導への参考とすることができた。
- ・中学校との連絡会は、今年度卒業予定児童の確実な引継ぎができると共に、昨年度入学した生徒の情報交換をすることで、今年度中学校入学児童への生活・学習指導の参考とすることができた。
- ・幼稚園・保育所との交流活動は、発表会の準備を通して、自分や友だちが入学してからたくさんのお話をできるように、成長したことを実感し、自信を深めることができた。
- ・小6中1学習発表交流会は、総合的な学習で調べまとめた内容を小6児童と中1生徒が発表し合うことで、お互いに良い刺激となった。小6児童にとっては、中学生の発表内容や発表の仕方から多くのものを学ぶ場となり、目前に迫った中学校生活への不安解消や期待を育む場となった。
- ・特別支援連絡協議会では、各幼稚園・保育所、学校間の情報交換を行い、各学校の特別支援に関する情報を得ることができた。このことから課題を抱えた児童の支援について、特別支援学校のコーディネーターから適切な助言をいただくことができ、該当児童の支援に生かすことができた。

事業の課題・改善策

- ・入学後の児童の様子を伝えたり、幼稚園や保育所での様子を聞いたことで、児童理解の一助となった。今後も特に1学期は、幼稚園や保育所との連絡を密に取る必要がある。
- ・総合的な学習の小中の系統性、調べ学習の充実、指導のあり方などを吟味し合い、各校における総合的な学習の質を高めていく必要がある。
- ・特別支援連絡協議会は、年1回の開催であったため情報交換で終わった面がある。教育的支援を要する児童が増加傾向にあるため、その実態の把握と適切な支援体制を構築していきたい。
- ・町で統一して作成した個別指導記録簿が、作成されてから4年が経過し見直す必要があるため、今年度の取り組みの効果を職員で共有し、連絡会などで伝え、交流活動の継続のため検討・改善を図っていきたい。

事業の方向性 継続 縮小 拡大 統合 廃止 変更 その他（ ）

基本施策2：学校教育の充実

『未来の松島を担う、夢と志を持ち、誇りと自信に満ちた児童生徒の育成』

2) 夢と感動のある学校づくり

- ・児童生徒が主体的に協力と達成の喜びを体験できる教育活動の創造と支援（◎重点事業）
（町立小学校合同の6年生交流事業、町立小学校6年生と松島中学校1年生の総合学習合同発表会の実施、中学生ホームステイ交流事業及び体験発表等の実施）
- ・郷土松島を素材とする歴史文化教育と豊かな自然に学ぶ教育の工夫と実践
（総合的な学習の時間における義務教育9年間を通じたカリキュラムの検討と実践）（◎重点事業）
- ・異校種間の特徴を生かし、教職員相互の資質向上を目指す小中交流授業の企画と実施
- ・未来を志向した学校諸施設の充実とICT等の教育設備の充実（校務システムの年次導入）
- ・町内外の諸学校やアーティストとの交流活動の推進
（にかほ市立小学校や音楽・芸術団体等との交流の実施）

事業目的と概要

- ・幼、保、小、中との連携や小学校同士の連携を図り、児童の連続的成長を促す。
- ・各教科や総合的な学習の時間で松島に関する学習を充実させ、わが町松島への理解と思いを深める。
- ・小学校と中学校が合同で松島について学習したことを発表し合う。
- ・町外の学校との交流やアーティストとの交流活動を積極的に推進する。

事業実施状況

- ・町内小学校合同の6年生交流事業や町内小学校の6年生と松島中学校1年生との総合学習合同発表会、町内小中学校合同の特別支援学級合同発表会を実施した。
- ・3年生以上は総合的な学習の時間の中に松島についての学習を設定し、わが町松島の学習を計画的に実施した。特に4年生では「ふるさと松島の歴史」、6年生では「よその町を訪ね、松島町と比較しよう」という単元を設定し、松島の歴史と文化財に関する学習を行った。
- ・にかほ市立院内小学校の6年生が修学旅行で松島町に来るので、その機会を活用し本校6年生との児童交流を行った。
- ・歌手の倉木麻衣さんの訪問でアーティストとの交流活動を行った。

事業の効果

- ・町内の小学校同士の交流は、互いのよさを学び合うことができ、よい刺激を受けることができた。また、小学校と中学校との交流をもつことにより、中学校生活への漠然とした不安を減らし、具体的な希望をもたせることができた。
- ・3年生は教育委員会のバスで旧三小・四小等の学区内巡り、さらにはマリンピア松島水族館や五大堂等の校外学習を行った。4年生は品井沼干拓関係施設や浄水場見学等のふるさと学習を行った。5・6年生は集団宿泊学習や修学旅行を通し、自分が住んでいる町とよその町を比較することにより松島町のよさを学んだ。これらの学習を通し、ふるさと松島の理解を深めることができた。また、体験的な松島に関する学習を繰り返す中で、ふるさと松島への思いが深まってきた。
- ・にかほ市立院内小学校との交流で、瑞巖寺について本校6年生が院内小学校の6年生に説明する活動を通して、ふるさと松島町の良さを再認識することができた。
- ・本物のアーティストとの交流活動を通して、人と人の絆を感じ、互いに元気をもらい合うことができた。

事業の課題・改善策

- ・小中や小学校同士の交流会は、充実したものとなるよう、内容を工夫していきたい。
- ・これまで行ってきた松島にかかわる体験的なふるさと学習をさらに充実させていくとともに、自分たちで発見し、まとめた情報を発信する場を工夫していく。
- ・にかほ市立院内小学校との交流を継続し、さらに充実したものとなるよう工夫していきたい。

事業の方向性 継続 縮小 拡大 統合 廃止 変更 その他（ ）

基本施策2：学校教育の充実

『未来の松島を担う、夢と志を持ち、誇りと自信に満ちた児童生徒の育成』

2) 夢と感動のある学校づくり

- ・児童生徒が主体的に協力と達成の喜びを体験できる教育活動の創造と支援（◎重点事業）
（町立小学校合同の6年生交流事業、町立小学校6年生と松島中学校1年生の総合学習合同発表会の実施、中学生ホームステイ交流事業及び体験発表等の実施）
- ・郷土松島を素材とする歴史文化教育と豊かな自然に学ぶ教育の工夫と実践
（総合的な学習の時間における義務教育9年間を通じたカリキュラムの検討と実践）（◎重点事業）
- ・異校種間の特徴を生かし、教職員相互の資質向上を目指す小中交流授業の企画と実施
- ・未来を志向した学校諸施設の充実とICT等の教育設備の充実（校務システムの年次導入）
- ・町内外の諸学校やアーティストとの交流活動の推進
（にかほ市立小学校や音楽・芸術団体等との交流の実施）

事業目的と概要

- ◎異校種間や町内の小学校との交流活動、松島の歴史・文化・自然についての学習を進める中で、ふるさと松島への誇りと感動を持ち、主体的に学習に取り組む児童の育成を図る。
- ・品井沼干拓に関する学習、瑞巖寺や四大観の見学、檀山での森林体験学習などを通して、松島の歴史について知るとともに、自然・文化のすばらしさについて学び、ふるさとに誇りをもつことができるよう工夫し実践する。
- ・互いの学びについて発表し合い、自分の学びについて考える機会を設け、町内小学校6年生の合同交流学习や中学校1年生との合同学習発表会を実施する。
- ・町内小・中学校で指導主事訪問時や校内研究の研究授業の参観を互いに実施することで、教職員の指導力向上を目指す。

事業実施状況

- ・地域の方々などを講師に招き、ふるさとの歴史や文化財、自然について見学し、体験したことで、ふるさとのよさやすばらしさを感じながら学習を進めた。
- ・10月に町内小学校6年生による交流学习を実施した。また、1月には小学校3校の6年生と中学校1年生との合同学習発表会を実施した。小・中学校の合同学習発表会では、「総合的な学習の時間」で学んだことについて、それぞれの学校ごとに発表した。
- ・町内の小・中学校間で指導主事訪問時の授業や校内研究等に関わる授業について、互いに参観し、意見を交換した。

事業の効果

- ・品井沼干拓に関する学習では地域の識者の方を講師に招き、瑞巖寺や四大観の見学では、専門的な知識をもつ町学芸員を講師として各施設等の見学に同行し、指導していただいたことで、ふるさとの歴史や文化財についての理解が深まった。
- ・森林体験学習では、9月に宮城県森林組合の方を講師に招き、檀山の見学と林業体験を行った。また、12月には地域の職人の方を講師に招いて木工教室を実施し、松島産のひのきを使って「すのこ」を作成し、達成感をもって学習を完結することができた。
- ・小・中学校合同の学習発表会では、「総合的な学習の時間」で学習したことの発表を行った。他校の児童や中学生の発表を聞くことで、まとめ方や発表の仕方を参考としつつも、自分たちが調べた内容を別の視点から見ることができ、改めて松島のよさを知ることができた。
- ・町内の小・中学校間で研究授業を参観し、意見交換したことで、より広い見方で授業について分析することができ、授業改善の一助となった。

事業の課題・改善策

- ・小・中学校の合同学習発表会における発表については、調べたことを自分の生き方や夢などに関連させながら、より充実したまとめ方や発表にできるよう指導の工夫が必要である。
- ・町内の小・中学校間の研究授業の参観については、事後検討会まで参加することができず、感想箋を交換することで意見交換をしてきたが、事後検討会にも参加できる体制づくりを整え、より指導力の向上に生かしていく必要がある。

事業の方向性 継続 縮小 拡大 統合 廃止 変更 その他（ ）

基本施策2：学校教育の充実

『未来の松島を担う、夢と志を持ち、誇りと自信に満ちた児童生徒の育成』

2) 夢と感動のある学校づくり

- ・児童生徒が主体的に協力と達成の喜びを体験できる教育活動の創造と支援（◎重点事業）
（町立小学校合同の6年生交流事業、町立小学校6年生と松島中学校1年生の総合学習合同発表会の実施、中学生ホームステイ交流事業及び体験発表等の実施）
- ・郷土松島を素材とする歴史文化教育と豊かな自然に学ぶ教育の工夫と実践
（総合的な学習の時間における義務教育9年間を通じたカリキュラムの検討と実践）（◎重点事業）
- ・異校種間の特徴を生かし、教職員相互の資質向上を目指す小中交流授業の企画と実施
- ・未来を志向した学校諸施設の充実とICT等の教育設備の充実（校務システムの年次導入）
- ・町内外の諸学校やアーティストとの交流活動の推進
（にかほ市立小学校や音楽・芸術団体等との交流の実施）

事業目的と概要

- ・郷土を知り、郷土を愛する生徒の育成。
- ・教育環境（図書、ICT機器、人的活用）の整備
- ・ホームステイ事業への参加

事業実施状況

- ・1年の総合的な学習の一環として、「ふるさと調べ学習」を実施し、地域理解の学習を進めた。
- ・2年総合的な学習の一環として、町内で「職場体験学習」を実施した。
- ・合同学習発表会（1月）の実施。中学1年生と小学6年生が一堂に会し、総合的な学習の発表会を行った。
- ・教員が小学校に行き、卒業式前に小学生に歌唱指導を行った。
- ・町主催のルツェルンフェスティバルに生徒が参加した。また、桐朋学園から学生が来て演奏を披露した。

事業の効果

- ・互いに学習成果を発表し合い交流を深めることができた。また、小学生の中学校に対する抵抗感や不安（中1ギャップ）を解消する手立てにもなっていた。
- ・6年生に指導する機会があり、入学に向けて生徒理解の一助となった。
- ・一流のアーティストの演奏を聴くことで生徒の情操の涵養に有効であった。

事業の課題・改善策

- ・中1ギャップの解消には児童生徒の交流を深めることが有効であり、授業、部活動、各種行事に相互に交わる機会を増やしていきたい。
- ・小中の教員同士が授業を見合ったり、授業を行うことで生徒理解を深めていきたい。
- ・学校で使える時間は限られており、突発的に行事を組み込むことは難しい。事前に年間計画に位置付けて取り組んでいくことが大切である。

事業の方向性 継続 縮小 拡大 統合 廃止 変更 その他（ ）

基本施策2：学校教育の充実

『未来の松島を担う、夢と志を持ち、誇りと自信に満ちた児童生徒の育成』

3) 心身ともに健全な児童生徒の育成

- 子どもたちの安心・安全を守る取組の推進（いじめ・虐待・不登校・学校不適応・非行・自殺等の予防・心のケア等の相談や早期対応）〈◎重点事業〉
- 体力の向上や健康増進に向けた方策の推進〈◎重点事業〉
（COT や体づくり運動，体力テストの活用，生活習慣・食育，むし歯予防の取組，新規：松島中学校屋外運動場整備，人権啓発事業の実施）
- 学校・家庭・地域が一体となった品性豊かな調和のとれた子育て活動の検討と実施
（あいさつ運動，道徳教育，伝統文化教育，読書活動の推進，家族の広場づくり推進「circle of family 活動」）
- 幼保小中高の連携の推進
- 松島産米等のふるさと食材の活用，放射線検査実施による安全な給食の提供

事業目的と概要

- 思いやりの心を育て，豊かな人間関係を醸成する生徒指導を推進する。
- 児童の健康増進を目指すために，体力の現状及び課題を把握・分析しながら体力の向上を図り，健康教育，食育を充実させる。
- いじめの早期発見，早期対応を図る生徒指導を推進する。
- 健康教育，食育の充実として，全国や県における体力の相対的な位置づけを把握・改善するために，全校児童を対象に新体力・運動能力調査を実施する。
- 学校生活の中で，健康や食に関する意識を高め，実践していくことができる児童を育む。

事業実施状況

- 「明るい学校生活アンケート」を月末に実施し，悩みをもつ児童への聞き取り調査を定期的に行った。また，日頃の児童の様子（表情，態度，行動）について細やかに観察し，気になる児童についての情報交換を全職員で行いながら指導にあたった。
- 保護者と密に連絡をとり，多角的に情報を収集し，適切な指導・支援への結びつけを行った。
- PTA 役員や松島交番の方を交えて，いじめ問題対策委員会を年2回開催し，情報交換を行った。
- 新体力・運動能力調査では，昨年度に実施できなかったシャトルランも行い，全学年とも全種目実施した。また，30名程度の保護者ボランティアが計測の補助として参加した。
- 補助運動を通しての体づくりの推進としては，主運動に結び付けた補助運動の中で，体力を高める運動や体ほぐしの運動などを積極的に取り入れてきた。また，全職員が参加した「コーディネーショントレーニング研修会」を授業に生かし，意欲的にトレーニングを組み込んだ。
- 保健だよりや掲示資料などでの啓発，さらには栄養士による食育指導，フッ素洗口によるむし歯予防など，健康や食に対する意識を高めていく取り組みを学校生活の中に取り入れた。

事業の効果

- 「明るい学校生活アンケート」，いじめ問題対策委員会は，児童の学校生活，地域での生活の様子を知る有効な手立てとなり，得られた情報をもとに課題解決にあたることができた。
- スクールカウンセラー，子育て支援センター，児童相談センターとの連携を通して，児童虐待，育児放棄の疑いのある保護者・児童の教育相談を進め，多角的な面から指導・支援することができた。
- 新体力・運動能力調査では，昨年記録を上回ろうとする姿が見られ，どの種目にも一生懸命取り組む姿が見られた。また，本校児童の体力・運動能力の現状及び課題を客観的に把握・分析したことで，日々の授業の中でポイントを絞った補強運動などを行うことができた。
- 給食指導や保健指導での日々の活動は，給食指導の場面ではもちろんのこと，家庭科や体育の保健内容とも重ねて学習することができ，効果を高めることにつながった。

事業の課題・改善策

- 学校生活アンケート結果では，特に低学年において乱暴な言葉づかいや行動で困っているとの記入がみられた。このことは，いじめ対策として，分析と対策の継続性が重要である。
- 体力・運動能力調査で得られた結果から児童の実態をしっかり把握し，それらを日々の生活で少しでも生かすことができるようにしていく必要がある。特に苦手な運動領域に対しては，児童の興味や関心を喚起し，日常的に意識して増やしていくことができるよう努めていきたい。
- スポーツテストの集計結果について多面的な分析を行い，全国や県との比較を参考にしながらトータル的な体づくりを進めていく。
- 歯科衛生士による歯科指導とともに，栄養士と連携した食育指導を系統的に継続して実施していく。

事業の方向性 継続 縮小 拡大 統合 廃止 変更 その他（ ）

基本施策2：学校教育の充実

『未来の松島を担う、夢と志を持ち、誇りと自信に満ちた児童生徒の育成』

3) 心身ともに健全な児童生徒の育成

- ・子どもたちの安心・安全を守る取組の推進（いじめ・虐待・不登校・学校不適応・非行・自殺等の予防・心のケア等の相談や早期対応）〈◎重点事業〉
- ・体力の向上や健康増進に向けた方策の推進〈◎重点事業〉
（COT や体づくり運動，体力テストの活用，生活習慣・食育，むし歯予防の取組，新規：松島中学校屋外運動場整備，人権啓発事業の実施）
- ・学校・家庭・地域が一体となった品性豊かな調和のとれた子育て活動の検討と実施
（あいさつ運動，道徳教育，伝統文化教育，読書活動の推進，家族の広場づくり推進「circle of family 活動」）
- ・幼保小中高の連携の推進
- ・松島産米等のふるさと食材の活用，放射線検査実施による安全な給食の提供

事業目的と概要

- ・いじめ，不登校等の未然防止の方策を講じる。
- ・進んで運動に取り組むための環境づくりを工夫していく。また，規則正しい生活習慣と疾病やけがを予防する指導を充実していく。
- ・児童の健全育成のため，学校・家庭・地域との連携を図る。
- ・ふるさとの食材を題材とした食育指導を工夫していく。

事業実施状況

- ・月に1回4年生以上に生活アンケートを，学期に1回全児童に悩みアンケートを実施し，いじめや不登校等の未然防止に努めた。
- ・縦割り縄跳び運動，業間マラソンなどの運動の機会を意図的に設定し取り組ませた。また，校庭にドッジボールのラインを引いたり，各種カードを作成したりすることで，児童が自主的に体力作りに取り組めるように工夫した。
- ・保健だよりを活用し，健康な生活や体についての啓発を図った。また，1～2年生でフッ素洗口を実施した。
- ・栄養士さんを講師に招き，各学年で年2回，食育指導を行った。

事業の効果

- ・アンケートを定期的実施することにより，児童の悩みや人間関係のトラブルなどを早期に把握することができ，早期解決につながった。
- ・休み時間に，進んで縄跳びやマラソンに取り組む姿が見られた。また，校庭にドッジボールやサッカーのライン等を引いておくことにより，子どもたちが自然にドッジボールやサッカーのゲームを楽しむようになり，進んで校庭で運動する姿が増えてきた。
- ・季節や伝染性疾患の流行等に応じたタイムリーな保健だよりを発行することにより，児童の健康な生活や体について保護者の理解を得ることができた。フッ素洗口は，幼稚園からの積み重ねがあり，戸惑うことなく導入することができ，スムーズに虫歯予防に取り組むことができた。
- ・栄養士さんの話を聞くことによりバランスの良い食事の大切さや噛むことの大切さに気づき，嫌いな物でも少しは食べようと努力したりよく噛もうとする児童が増えてきた。

事業の課題・改善策

- ・定期アンケートとともに，日頃からの担任の観察等を丁寧に行い，今後もいじめや不登校等の未然防止に努めていきたい。
- ・「新運動能力テスト」の結果を踏まえ，運動能力的に落ちている部分を補えるような教科体育や遊びを工夫していく。
- ・食育指導計画を毎年吟味し，食育に関する指導を全学年で計画的に実施していきたい。

事業の方向性 継続 縮小 拡大 統合 廃止 変更 その他（ ）

基本施策2：学校教育の充実

『未来の松島を担う、夢と志を持ち、誇りと自信に満ちた児童生徒の育成』

3) 心身ともに健全な児童生徒の育成

- 子どもたちの安心・安全を守る取組の推進（いじめ・虐待・不登校・学校不適応・非行・自殺等の予防・心のケア等の相談や早期対応）〈◎重点事業〉
- 体力の向上や健康増進に向けた方策の推進〈◎重点事業〉
（COT や体づくり運動，体力テストの活用，生活習慣・食育，むし歯予防の取組，新規：松島中学校屋外運動場整備，人権啓発事業の実施）
- 学校・家庭・地域が一体となった品性豊かな調和のとれた子育て活動の検討と実施
（あいさつ運動，道徳教育，伝統文化教育，読書活動の推進，家族の広場づくり推進「circle of family 活動」）
- 幼保小中高の連携の推進
- 松島産米等のふるさと食材の活用，放射線検査実施による安全な給食の提供

事業目的と概要

- ◎心身ともに健康な生活を送るために必要な正しい知識・習慣・態度を育成し，自主的に実践する力を高め，体力の保持増進を図る。
- 挨拶や健康教育に必要な基本的な生活習慣・態度の育成に努め，「生活アンケート」を実施することによって，その成果を検証する。
- 「いじめアンケート」等の実施や組織的な観察や情報交換等により，いじめ等の予防，早期発見に努め，重大事案の未然防止に努める。
- 業間運動や外での遊びを活性化させるとともに，体力テストの結果の分析を生かしながら体育的諸活動及び教科体育の改善・充実を図り，基礎体力の向上に努める。
- 食の重要性を家庭や地域に啓発し，給食指導を中心とした食に関する指導の充実に努める。
- 幼，保と小，小と中に加えて，留守家庭児童学級と小の間で相互授業参観や相互訪問，情報交換を通じて連携を図る。
- 学校日より，保健日より，学級日よりなどにより家庭への啓発を図る。

事業実施状況

- 家庭と連携しながら，「はやね・はやおき・あさごはん」の指導を繰り返し行うとともに，毎週火曜日を「ノーテレビ・ノーゲームデー」として家庭への協力を呼び掛けた。また，朝会や児童集会などの場を通じて，健康や安全に関する啓発活動を行った。
- 定期的に「いじめアンケート」等の調査を行い，その結果を共有する場や日常の様子についての情報交換する機会を設けた。
- 週2回の「業間全校マラソン」を実施し，周回数を継続的にカードに記録するようにして，自主的な取組を促した。また，なわとびや一輪車などの運動に親しませ，健康の増進と体力の向上を図った。
- 町の保健福祉センターや給食センターの協力を得て，口腔衛生指導や食に関する指導を全学年で実施した。
- 「成長測定」の結果をもとに，肥満傾向にある児童については養護教諭や当該学級担任が個別に家庭と連携を図りながらその解消に努めた。また，フッ素洗口については1・2年において実施した。

事業の効果

- 「生活アンケート」の結果，基本的な生活習慣については，就寝時刻，ゲームやテレビの視聴時間において，前年度からの改善が見られた。
- いじめ，虐待，不登校等の防止については，継続的な取り組みにより重大化することなく，児童のよさを伸ばす視点に立った指導を実施することができた。
- 休み時間や放課後など，外遊びをする児童が増えてきた。また，業間マラソンにも自主的かつ意欲的に取り組む児童が増えてきた。
- 歯磨き指導，食育の指導についても外部講師の協力を得て指導を進め，給食後の歯磨きの励行を着実に進めた結果，歯磨きの重要性や食事の大切さへの意識の高まりが見られた。
- 「成長測定」の結果から，課題のある児童については，肥満児童を対象とした集団宿泊活動に参加したり，病院へ相談に行ったりするなど，家庭の意識が高まった。

事業の課題・改善策

- 望ましい基本的な生活習慣の定着に関しては，改善が見られたが，課題がみられる児童（家庭）もあり，保護者への啓発をしながら，個別に働き掛け改善を図っていく。
- COT の取組については，各学年において，体育科を中心にカリキュラム編成の上でどのような位置付けで生かしていくかについて，町内の幼・小において共通の認識で推進していく必要がある。

事業の方向性 継続 縮小 拡大 統合 廃止 変更 その他（ ）

基本施策2：学校教育の充実

『未来の松島を担う、夢と志を持ち、誇りと自信に満ちた児童生徒の育成』

3) 心身ともに健全な児童生徒の育成

- ・子どもたちの安心・安全を守る取組の推進（いじめ・虐待・不登校・学校不適応・非行・自殺等の予防・心のケア等の相談や早期対応）〈◎重点事業〉
- ・体力の向上や健康増進に向けた方策の推進〈◎重点事業〉
（COT や体づくり運動，体力テストの活用，生活習慣・食育，むし歯予防の取組，新規：松島中学校屋外運動場整備，人権啓発事業の実施）
- ・学校・家庭・地域が一体となった品性豊かな調和のとれた子育て活動の検討と実施
（あいさつ運動，道徳教育，伝統文化教育，読書活動の推進，家族の広場づくり推進「circle of family 活動」）
- ・幼保小中高の連携の推進
- ・松島産米等のふるさと食材の活用，放射線検査実施による安全な給食の提供

事業目的と概要

- ・積極的な生徒指導の推進。
- ・健康保持増進を狙いとした健康教育の推進。
- ・地域イベントへの積極的な参加。
- ・老朽化の著しい体育館の大規模改修を行い，生徒等の安心安全な教育環境の整備を図る。また，旧体育館跡地に全天候型の屋外運動場と照明施設を整備し，併せて渡り廊下を建設し教育環境の質的向上を図る。

事業実施状況

- ・通常学級に在籍する特別な支援を要する生徒の個別指導計画の作成と支援体制の整備を行った。
- ・特別支援教育支援員を有効に活用した。
- ・保健講話で生活習慣病から身を守ることにについて学習した。
- ・「海の盆」の一環として実施された「みんなの灯道」に全校生が置き灯ろうを制作した。
- ・生徒会を中心にしたあいさつ運動を継続している。
- ・前年度から継続の体育館大規模改修を行い，解体した旧体育館跡地に全天候型の屋外運動場と照明施設を整備し，併せて渡り廊下を建設した。

事業の効果

- ・特別支援教育コーディネーターを中心に，通常学級の生徒に関するチェックリストを活用し，特別な支援を要する生徒の特定と支援計画を立案することができた。
- ・置き灯籠の制作に，全員が関わることにより，地域への帰属意識が高められた。
- ・体育館が新しくなりサブコートも整備され，授業，部活動での活動が充実してきた。
- ・特別支援教育支援員の活用により，異なる実態の生徒に対してより細やかな支援が可能になった。
- ・老朽化の著しい体育館の大規模改修を行ったことにより，生徒等の安心安全な教育環境の整備を図ることができた。また，旧体育館跡地に全天候型の屋外運動場と照明施設を整備し，併せて渡り廊下を建設したことにより，教育環境の質的向上を図ることができた。

事業の課題・改善策

- ・地域に育った実感を味わわせることや地域のイベントに直接携わらせることによって，生徒の「郷土愛」を今後も育てていきたい。
- ・体力向上，健康管理について受動的な部分が多いので，自らの健康を保持する知識や態度について，さらに指導を重ねることが必要である。
- ・生徒支援チームが中心となり情報収集を広く行うとともに，生徒の問題行動解決にはチームとして迅速に当たる。
- ・生徒等の安心安全な教育環境の整備を計画的に進めていくため，日頃からの点検を確実にを行い，老朽化に伴う改修と破損等による修繕を速やかに実施できるような総合的な予防保全型の管理・徹底に努めていきたい。

事業の方向性 継続 縮小 拡大 統合 廃止 変更 その他（ ）

基本施策2：学校教育の充実

『未来の松島を担う、夢と志を持ち、誇りと自信に満ちた児童生徒の育成』

3) 心身ともに健全な児童生徒の育成

- ・松島産米等のふるさと食材の活用、放射線検査実施による安全な給食の提供

事業目的と概要

- ・児童生徒の心身の健全な発達と食生活の改善を図り、栄養バランスの摂れた食事を提供することにより、成長期にある児童生徒の健康の保持増進と体位の向上に寄与する。また、食育基本法の趣旨を踏まえ「はやね・はやおき・あさごはん」の浸透を図り、食事を通して豊かな人間関係や協調性、感謝の心を養う。
- ・発育期にある児童生徒に栄養バランスの摂れた食事を提供し、健康増進を図るため、国の栄養摂取基準に沿いながら、季節や行事食、地場産品を取り入れるなど、創意工夫し献立作成に努める。
- ・食の安心安全を図るため、地場産品の利用やアレルギー児童生徒への対応、食育の推進として給食時間を利用して食に関する指導を行う。

事業実施状況

- ・給食回数は通常、幼稚園が 165 回、小学校が 175 回、中学校 1・2 年生が 168 回、中学校 3 年生が 163 回実施しているが、平成 25 年度は一部でインフルエンザ発生に伴う学級閉鎖により減少した。実提供数は 203,581 食である。
- ・地場産品の利用については、松島町産環境保全米の「ひとめぼれ」をはじめ、松島町産のトマト・味噌などの農産物を活用した給食を児童生徒に提供した。また、松島産の利用促進を図るため、平成 21 年度より、じゃがいも・白菜、平成 22・23 年度からは、ねぎ・大根・玉ねぎ等に加えて、新たに、ブルーベリー・焼きハゼを使用するなど農水産物を活用した。特に平成 25 年 11 月 20 日は地場産推進デーとして、町内産環境保全米ササニシキ（めごの舞）を始め 10 品目の地場産を使用した給食を提供した。
- ・アレルギー児童生徒への対応として、献立表の他に詳細な成分配合表を配布した。
- ・食育の推進として、各幼稚園・小学校・中学校に、給食時間を利用した食に関する指導の実施、学校給食を理解していただくために、各幼稚園・小学校の保護者を対象にした試食会（親子との給食）を開催した。
- ・物資の調達に関しては、産地や物資成分表によりチェックするとともに、検収時にも検品し、調理前後に放射能測定検査を行い安心安全な食材を使用した。

事業の効果

- ・6 月の食育月間や 11 月の「みやぎ食育推進月間」には、地場産品を多く活用し、児童生徒が身近なところで生産された食材を使用することにより、食の大切さ、食材の安心・安全などが図られた。平成 25 年 11 月 20 日の地場産推進デーには、小学校にて地場産品の展示や生産者との給食交流会を開催し、児童と生産者の交流が図られた。
- ・食育指導や調理方法の工夫などにより、残食や好き嫌いの減少傾向が見られた。

事業の課題・改善策

- ・地場産品については、松島町産の味噌等を継続して使用していくほか、松島産の野菜を使用するなど、活用を増やすとともに、生産者の顔が見え、さらには生産の苦労が分かり、身近な畑で収穫され、安心・安全でバランスの摂れた栄養のある食事ができる献立作成に努めていきたい。
- ・アレルギー児童生徒への対応については、学校給食担当者会議など各学校と連携を図り、今後も継続して対応していきたい。
- ・食育の推進では、栄養士による講話を実施した各幼稚園・小学校・中学校で実施したが、今後も各学校と連携を図り実施していきたい。
- ・物資の調達に関しては、今後においても関係機関と連携しながら、食品問題などについては情報収集に努めていきたい。

事業の方向性 継続 縮小 拡大 統合 廃止 変更 その他（ ）

・地場産使用状況

野菜

(単位：kg)

| 品目 | H24年度 | | | H25年度 | | |
|--------|--------|--------|-------|--------|--------|-------|
| | 総使用量 | 地場産使用量 | 使用割合 | 総使用量 | 地場産使用量 | 使用割合 |
| じゃがいも | 2,951 | 771 | 26.1% | 2,619 | 856 | 32.6% |
| 白菜 | 1,500 | 760 | 50.4% | 1,657 | 999 | 60.2% |
| 大根 | 1,566 | 391 | 24.9% | 1,367 | 392 | 28.6% |
| 人参 | 3,119 | 13 | 0.4% | 3,142 | 12 | 0.4% |
| ねぎ | 1,869 | 1,349 | 72.1% | 1,681 | 1,007 | 59.9% |
| | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ |
| 主要8品目計 | 18,971 | 3,284 | 17.3% | 18,528 | 3,989 | 21.5% |

その他

(単位：kg)

| 品目 | H24年度 | H25年度 |
|--------|--------|---------|
| 環境保全米 | 45,123 | 102,600 |
| 豆腐 | 1,880 | 1,657 |
| 味噌 | 586 | 1,367 |
| おから | 15 | 3,142 |
| トマト | 401 | 1,681 |
| 赤かぼちゃ | 322 | 18,528 |
| ブルーベリー | - | 10 |

・食育の推進状況

| 実施行事等 | 参加者等 |
|----------------------|---|
| 親子での給食試食会 | <ul style="list-style-type: none"> ・第二幼稚園，第五幼稚園の保護者 ・第一小学校1・3年生，第二小学校の1年生，第五小学校の1・6年生の保護者 |
| 生産者との交流会及びホテル調理人企画給食 | <ul style="list-style-type: none"> ・第五小学校の児童と野菜生産者との交流会 ・町内のホテル調理人が監修したおかずを学校給食として提供 |
| 栄養士による食育指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・町内各幼稚園，小学校，中学校全クラス給食時に食育指導（2回実施） |

・残食の割合

(単位：%)

| 項目 | 平成22年度 | 平成23年度 | 平成24年度 | 平成25年度 |
|----|--------|--------|--------|--------|
| 主食 | 6.3 | 6.6 | 6.0 | 7.1 |
| 牛乳 | 4.5 | 4.5 | 4.0 | 2.3 |
| 主菜 | 7.4 | 8.1 | 8.1 | 7.1 |
| 副菜 | 10.2 | 14.9 | 11.2 | 9.5 |
| 汁物 | 8.5 | 11.5 | 13.5 | 11.4 |

基本施策2：学校教育の充実

『未来の松島を担う、夢と志を持ち、誇りと自信に満ちた児童生徒の育成』

4) 松島の歴史と文化を学ぶ活動の充実

- ・総合的な学習の時間の充実（◎重点事業）
（地域と協働し、松島の歴史や文化等を学ぶためのカリキュラムの作成と実践）
- ・キャリア教育、志教育の推進（小中高連携による検討・松島町内での職場体験学習）
- ・国際交流、地域間交流の推進（ICTを活用した海外や秋田県にかほ市等との児童生徒間交流）

事業目的と概要

- ◎心身ともに健全で、豊かな知力と感性及び強い意志を持ち、いきいきと諸活動に励む児童の育成に努め、地域の伝統的行事や文化的活動に主体的、継続的に関わられるようにし、郷土を愛する心情と態度の育成に努める。
- 地域の歴史・文化財を活用した学習活動
 - ・瑞巖寺の解体修繕工事に関連した見学、学芸員を招いての出張授業（6月）
 - ・地域の伝統的行事や文化的活動への参加
 - ・夏の「松島流灯会海の盆 2013」において瑞巖寺に飾る灯籠作り（全学年）
 - ・秋の町民文化祭での演技発表（5年生）と絵画の出展（3年生）

事業実施状況

- ・地域の歴史・文化財を活用した学習活動では、各クラス2グループに分けて、瑞巖寺本堂・庫裡・宝物館・陽徳院御霊屋を見学した。また、「瑞巖寺をもっと知ろう」という単元で出張授業を依頼し、松島や瑞巖寺の由来や出土品について学習した。
- ・地域の伝統的行事や文化的活動への参加としては、全学年が「松島流灯会海の盆 2013」で使用する灯籠作りを行った。出来上がった灯籠は8月14～16日に行われた「松島流灯会海の盆 2013」で、瑞巖寺参道を照らし、観光客等へのアピールの一助を担った。
- ・5年生は「松一小太鼓」を町民文化祭で発表した。3年生は「松島の風景」の絵を出展した。

事業の効果

- ・地域の歴史・文化財を活用した学習活動では、今年度だけ見ることができる機会（瑞巖寺改修工事に伴う見学会）があり日頃は見られない場所を見せていただいたり、詳しい説明をしていただいたりしたことで、瑞巖寺について興味を持つ児童が増えた。また、実物に触ることができ、非常によい経験となった。
- ・見学は、歴史の授業で学習した時代にあったものを実物として“復習”することができ、歴史が身近に感じられた。また、学区内に貴重な文化財があることを知り、より詳しく調べてみたいという意欲も高まった。
- ・地域行事への参加は、“ふるさと松島”を改めて見つめるよいきっかけとなった。また、地域の方々に作品や演技を披露し賞賛の声をいただいたことは、児童にとって大きな喜びとなった。
- ・「松島流灯会海の盆 2013」の灯籠作りは、全学年で取り組んだことで、協力する心を育むことができた。
- ・5年生は、地域の方をゲストティーチャーに迎え、太鼓演奏に取り組んだ。また、文化観光交流館（旧中央公民館）を利用して練習も多く設定し、地域の創作太鼓演奏に取り組んだ。このことは、地域への関心を高める良い機会となった。さらには、太鼓の指導を通して、地域の方と密に触れ合うことができた。

事業の課題・改善策

- ・課題としては、地域の伝統行事の実施について、年度当初にはっきりとした見通しがもてなく、学校行事等への年間計画の立案に反映させることが難しい。そのため、地域の行事や活動の担当者との連絡を密にし、今後もより多くの学習活動を提供できるよう計画的に進めていきたい。
- ・地域の歴史や文化財を活用した学習では、町の学芸員に出張授業を依頼するとともに、6年担任が社会科学習指導計画を参考に年度当初に計画を立て、継続的に実施できるよう連携を図りたい。

事業の方向性 継続 縮小 拡大 統合 廃止 変更 その他（ ）

基本施策2：学校教育の充実

『未来の松島を担う、夢と志を持ち、誇りと自信に満ちた児童生徒の育成』

4) 松島の歴史と文化を学ぶ活動の充実

- ・総合的な学習の時間の充実（◎重点事業）
（地域と協働し、松島の歴史や文化等を学ぶためのカリキュラムの作成と実践）
- ・キャリア教育、志教育の推進（小中高連携による検討・松島町内での職場体験学習）
- ・国際交流、地域間交流の推進（ICTを活用した海外や秋田県にかほ市等との児童生徒間交流）

事業目的と概要

- ・総合的な学習の時間における松島についての学習を充実させ、わが町松島への理解と思いを深める。
- ・町内小学校、松島中学校、松島高校との連携による志教育の推進。
- ・ALTを活用した国際理解教育の推進。
- ・にかほ市院内小学校との交流。

事業実施状況

- ・3年生以上の全学年で、松島について「知る・探る・見つめ直す・考える・楽しむ」をテーマにふるさと松島について継続的、系統的に学習に取り組んだ。
- ・松島中学校、松島高校との連携について検討し、町内小中学校合同発表会を実施した。
- ・ALTを活用し、各教科・領域・集会・行事の時間に、日本と諸外国との違いに気付く活動に取り組んだ。
- ・にかほ市院内小学校の6年生が修学旅行で松島町を訪れた際、院内小学校の6年生には、にかほ市について紹介してもらい、本校の6年生は瑞巖寺について学んだことを院内小学校の6年生に説明した。

事業の効果

- ・各学年で松島についての学習を通して、ふるさと松島の理解を深めることができた。また、体験的に松島に関する学習を繰り返す中で、ふるさと松島への思いが深まってきた。
- ・町内小中学校合同発表会での発表を互いに聞き合うことにより、連携が深まった。
- ・ALTの先生から英語教育だけでなく、出身地（ニュージーランド）の文化や自然、動物などについても教えてもらい、日本文化との違いについて感じ取り、外国に対する興味関心を高めることができた。
- ・にかほ市の院内小学校との交流で、発表という明確な目的意識がある中、児童はコンピューター等を活用し、意欲的に瑞巖寺についての調べ学習に取り組むことができた。

事業の課題・改善策

- ・ゲストティーチャーの活用や松島について体験的に学ぶ活動をさらに工夫していきたい。
- ・ALTとの授業や行事の打ち合わせの時間がなかなか確保できない。そのため、より充実した内容とできるよう工夫が必要であり、打ち合わせ時間の確保と併せ検討していきたい。
- ・今年度は瑞巖寺に限定して、にかほ市の院内小学校の6年生に説明したが、伝えたい松島町の歴史や文化はまだまだあり、もっと広げて学習の機会を設け説明していきたい。

事業の方向性 継続 縮小 拡大 統合 廃止 変更 その他（ ）

基本施策2：学校教育の充実

『未来の松島を担う、夢と志を持ち、誇りと自信に満ちた児童生徒の育成』

4) 松島の歴史と文化を学ぶ活動の充実

- ・総合的な学習の時間の充実（◎重点事業）
（地域と協働し、松島の歴史や文化等を学ぶためのカリキュラムの作成と実践）
- ・キャリア教育、志教育の推進（小中高連携による検討・松島町内での職場体験学習）
- ・国際交流、地域間交流の推進（ICTを活用した海外や秋田県にかほ市等との児童生徒間交流）

事業目的と概要

- ◎地域の豊かな自然や文化に触れ、ふるさとを中心とした環境や福祉などを理解することで、自らの将来に向けての夢をもち、地域の一員としてふるさとの発展に尽くすことができる児童の育成を図る。
- ・ふるさと教育を本校の特色ある教育活動として位置付け、積極的な指導を推進する。
- ・生活科や社会科、総合的な学習の時間を中心にして、各学年の教育課程にふるさと松島のよさや歴史、文化財について学ぶ機会を設定する。
- ・志教育を各教科・領域の指導計画に従って実践を進める。

事業実施状況

- ・ふるさと教育を本校の特色ある教育活動として位置付け、地域の人材の積極的な活用を図り、花壇の整備や菊づくり、郷土に伝わる舞踊（豊年踊り、菱取り踊り）などの指導において実践した。
- ・町の自然や施設での遊びや見学など、体験的な活動を教育課程に位置付け、「学校周辺の探検」（1・2年）、「町めぐり」（3年）、「品井沼干拓に関する町めぐり」（4年）、「森林学習（檀山）」（5年）、「四大観めぐり」（6年）などの学習活動を行った。
- ・志教育の年間指導計画に沿って、各教科・領域において実践を進めた。第6学年では、「小中学習交流会」において、総合的な学習の時間のテーマ学習のまとめの発表を行った。

事業の効果

- ・花壇の整備や菊づくり、地域の施設や歴史についての学習や伝統芸能体験などを通して、地域の方々との交流が深まるとともに、地域及びそのよさについて深く知り、進んで関わろうする意欲を高めることができた。
- ・菊づくりについては町民文化祭の場で、舞踊については、運動会や学習発表会の場でそれぞれ学習の成果を発表することができた。
- ・町の自然や施設での遊びや見学により、ふるさと松島のよさを体験を通して味わうことができただけでなく、教科・領域としてのねらいに沿った学習を深めることもできた。
- ・志教育の推進については、「かかわる」、「もとめる」、「はたす」の3つの視点を意識した取組を進める中で、指導する上での留意点等についての理解が深まった。

事業の課題・改善策

- ・志教育の推進については各活動において、志シートの効果的な活用を考えていくとともに、3つの視点と、より明確に関連付けた詳しい指導計画を作成し、実践を進めていく必要がある。
- ・「統合的な学習の時間」において、より効果的で系統的な取り組みがなされるように、同一校種間や異校種間でのカリキュラムのすりあわせを行うことが必要である。
- ・ICT教育の推進については、パソコンの老朽化や台数の不足、使い勝手の悪さなど、「環境」について大きな課題がある。そのため、今後の教育環境の整備について、優先的に設置できるよう努めていきたい。

事業の方向性 継続 縮小 拡大 統合 廃止 変更 その他（ ）

基本施策2：学校教育の充実

『未来の松島を担う、夢と志を持ち、誇りと自信に満ちた児童生徒の育成』

4) 松島の歴史と文化を学ぶ活動の充実

- ・総合的な学習の時間の充実（◎重点事業）
（地域と協働し、松島の歴史や文化等を学ぶためのカリキュラムの作成と実践）
- ・キャリア教育，志教育の推進（小中高連携による検討・松島町内での職場体験学習）
- ・国際交流，地域間交流の推進（ICTを活用した海外や秋田県にかほ市等との児童生徒間交流）

事業目的と概要

- ・小・中・高連携事業の推進
- ・町内での職場体験学習
- ・にかほ市との生徒間交流

事業実施状況

- ・積極的な進路先の訪問による相談活動を実施した。
- ・町主催のホームステイ事業に生徒5名，引率教諭1名が参加した。

事業の効果

- ・町内各種施設を訪問し，視野を広げることができた。
- ・新たに松島町のよさに気づく機会となった。
- ・県外の生徒との交流を通し，将来の街づくりについて考えを深めることができた。
- ・ホームステイに参加した生徒にとっては異文化体験が国際理解に役立つものと思われる。

事業の課題・改善策

- ・小中の連携は，中1ギャップの解消をねらいとしたものであるが，小学生が中学生と交わる機会は今後も増やしていきたい。
- ・小中の連携に当たっては，学校間の情報の共有と共通認識の上に，一貫性と系統性を持たせていきたい。
- ・町の将来を担う生徒を育てるうえで，町の現状を知るとともに，将来町のためになるような情報を得ることは欠かせない。町内に限定せず，いろいろな機会をとらえて小中高生はもちろんのこと，社会人との交流も深めていくことが大切である。
- ・国際理解については，郷土や自国の理解の上に多くの異質なものを認め，受け入れていくような指導を続けていくことが大切である。

事業の方向性 継続 縮小 拡大 統合 廃止 変更 その他（ ）

基本施策2：学校教育の充実

『未来の松島を担う、夢と志を持ち、誇りと自信に満ちた児童生徒の育成』

5) まつしま防災学の強化

- ・「自助」「共助」「公助」を基軸に据えた「まつしま防災学」の推進（◎重点事業）
（小学校・中学校の防災教育共通カリキュラムの作成，ライフライン，防災における備蓄等についての学習）
- ・地域との協働による防災教育の実施
- ・安全な教育環境の整備と防災体制の整備（太陽光発電による緊急用電源設置）

事業目的と概要

- ◎児童が心身の発達に応じて、安全について必要な事柄を理解するとともに、常に安全な行動ができるようにする。また、学校環境や学校生活などにおいて、事故の原因となるような要因を早期に見出し、事故防止と児童の安全確保に努める。
- ・学校行事（保健安全的行事）や学級活動（保健安全に関する授業）における実践的な指導
- ・各教科学習時の安全，休憩時・放課後の安全，通学路の安全確保，学区内危険箇所への安全配慮，児童の遊びや運動の観察と指導
- ・登校時は職員による登校指導を週1回（毎週金曜日）実施
- ・安全サポーターの方々の協力をいただきながら安全確認の徹底
- ・学校環境の安全管理として，校舎内外の施設・設備の安全点検の実施
- ・防災教育を主軸とする「まつしま防災学」の充実

事業実施状況

- ・安全教育計画に基づき，運営機構の関連を考慮し，全職員協力共同して児童の安全確保に努めた。
- ・「まつしま防災学」を学校の防災教育の中心に位置付け，防災主任が中心となり，研究部（学年主任・学活主任・道徳主任・総合的な学習の時間の主任）と連携して指導にあたった。
- ・配当時間としては，「まつしま防災学」を学活の時間の中に2時間配当し，生活科の中では地域防災に関する課題を設定し，2時間の学習に取り組んだ。また，総合的な学習の時間の中で地域防災に関する課題を設定し，3～5時間の学習に取り組んだ。（1・2年：4時間，3年：5時間，4年：6時間，5・6年，7時間）
- ・指導内容については，地震・津波・火事の怖さについて指導し，災害種別や時間・場所にも対応した一次避難場所をあらかじめ指定しておき，災害に応じた的確な判断を実践できるよう訓練した。
- ・訓練では，発災時に自分の身を守るため，どのような行動を取るべきか指導し，地震発生時には，被害が拡大しないよう学校や家庭で何をすべきかを学ばせ，訓練で実践した。

事業の効果

- ・安全学習として実施した避難訓練や引き渡し訓練は，東日本大震災での経験や対応が効果につながり，地震想定での初動対応が児童一人一人に浸透し，揺れや落下物などによるケガの防止を速やかに行動する姿が見られた。また，津波想定では幼稚園（高台）へ全児童・職員が速やかに避難することができ，大地震の時には，高台に避難するという意識が高まった。
- ・防災教育では，防災に関する知識や実践力が次第に高まり，地域防災と連携した世代を引き継ぐ地震に強いまちづくりへ関心を持ち，ステップアップする児童が見られるようになってきた。
- ・安全管理としては，登下校時における指導・巡視を事前対策として行い，大変効果的であった。特に職員による登校指導や安全サポーターの方々の児童への声かけ，地区子ども会の方々のあいさつ運動は，児童に歩行の仕方を指導する場であり，交通安全や不審者対策，明るい社会づくりに大いに役立った。
- ・学区内の危険箇所の把握は，これまでの危険箇所マップで指定された箇所のみでの指導にとどまらず，PTA（地区委員長）からの情報提供（いじめ対策委員会）によって，新たな危険箇所を発見・指定し，それに基づいた巡視の実施や学級における児童への指導が可能となり，大変効果的であった。

事業の課題・改善策

- ・課題としては，第二避難所を幼稚園と指定し，幼稚園と連携しての合同避難訓練を実施することはできたが，地域防災としての地域との連携に課題がある。そのため，地域関係者（PTA等）との連携を強化し，合同の避難訓練等を計画していきたい。
- ・具体的な訓練としては，避難所設営訓練など地域との連携に向けた取組の改善を図っていきたい。
- ・防災教育としては今後も写真やビデオ，テレビ番組など視聴覚教材を活用し，データ提示の仕方を工夫するなど具体的で分かりやすい指導の継続が必要であり，平成25年度に行ったカリキュラムを各学年ごとにデータで保存し，指導方法の幅を広げていく。

事業の方向性 継続 縮小 拡大 統合 廃止 変更 その他（ ）

基本施策2：学校教育の充実

『未来の松島を担う、夢と志を持ち、誇りと自信に満ちた児童生徒の育成』

5) まつしま防災学の強化

- ・「自助」「共助」「公助」を基軸に据えた「まつしま防災学」の推進（◎重点事業）
（小学校・中学校の防災教育共通カリキュラムの作成，ライフライン，防災における備蓄等についての学習）
- ・地域との協働による防災教育の実施
- ・安全な教育環境の整備と防災体制の整備（太陽光発電による緊急用電源設置）

事業目的と概要

- ・災害時における児童の安全を確保するための防災教育計画の充実を図る。
- ・防災教育計画にもとづく地震・津波・火災の避難訓練を実施し，防災教育計画の改善に努める。
- ・「まつしま防災学」指導計画の実践と充実・改善を図る。

事業実施状況

- ・東日本大震災の実体験を生かし，0次避難・1次避難・2次避難と段階に応じた避難方法・避難場所を取り入れた避難訓練を実施した。その際，区長さんをはじめ多くの地域の方に避難の様子を見ていただき，避難時の協力をお願いした。また，避難所開設に向けた準備として，災害用備蓄物資の備蓄場所や備蓄数量などについて地域の方々に情報提供した。
- ・キュートメールの全家庭登録と緊急電話連絡網の整備をお願いした。
- ・「まつしま防災学」指導計画を震災の経験を生かして改善し，生活科や総合的な学習の時間において実践した。

事業の効果

- ・東日本大震災の実体験を生かした避難訓練・引き渡し訓練も2年目を迎え，整然と行うことができた。また，避難訓練には区長さんを始めた皆さんの地域の方々に参加していただくことができた。
- ・区長さんをはじめ地域の方々に災害備蓄物資の備蓄場所や備蓄数量を理解していただいたことは，今後の避難所開設訓練実施に向け，よい共通理解の場となった。
- ・キュートメールの登録は，ほぼ全家庭の登録を行うことができ，いろいろな場面で有効に活用することができた。また，緊急時の連絡方法を数多く確保するという事で，各学級と地区ごとの緊急電話連絡網を作成した。
- ・「まつしま防災学」を東日本大震災の経験をもとに，更に改善しながら計画的に実施することにより，児童の危機意識が高まり，いざという時にどのように行動すればよいかを考えられるようになってきた。また，PTAと協力し5～6畳ほどの大きさの松島第二小学校マップに，追加の危険個所にシールを貼った。児童が，どこにどのような危険個所があるかを把握するのに役立っている。

事業の課題・改善策

- ・学校外において地震や津波に遭遇した場合の対応等いろいろな場面を想定し，今後も計画的に避難訓練等を実施していきたい。
- ・学校が避難所となった場合の運営マニュアルの作成を行った。今後も継続的に見直しを行っていきたい。
- ・平成25年度は，松島第二幼稚園・保育所分園・松島第二小学校・松島中学校が同じ場所（セザール裏の高台）に避難するというケースを想定し，合同の避難訓練（地震と津波対応）を実施した。いくつか課題も見られたので，互いの実態を把握し，よりよい避難方法を探っていきたい。

事業の方向性 継続 縮小 拡大 統合 廃止 変更 その他（ ）

基本施策2：学校教育の充実

『未来の松島を担う、夢と志を持ち、誇りと自信に満ちた児童生徒の育成』

5) まつしま防災学の強化

- ・「自助」「共助」「公助」を基軸に据えた「まつしま防災学」の推進（◎重点事業）
（小学校・中学校の防災教育共通カリキュラムの作成，ライフライン，防災における備蓄等についての学習）
- ・地域との協働による防災教育の実施
- ・安全な教育環境の整備と防災体制の整備（太陽光発電による緊急用電源設置）

事業目的と概要

- ◎自分や他人の生命を尊重し，安全に行動できる態度や能力を養い，心身の健全な育成を図る。
- ・災害時に自分の身を守ることができる能力の育成を目指して，まつしま防災学と行事・学級活動などを関連付けながら防災教育計画の充実・深化を図る。また，保護者や地域との連携を進める中で避難訓練・引き渡し訓練などを通して，適切な判断の下に安全に避難行動ができるようにする。
- ・保護者や地域との連携を密にした防災教育・安全教育の充実に努める。

事業実施状況

- ・「まつしま防災学」については，「総合的な学習の時間」を中心に，避難訓練・引き渡し訓練などと関連付けながら指導を進めてきた。町総務課環境防災班や消防署，幡谷地区自主防災会などの協力の下，訓練の様子を視察していただいたり，消火訓練などを合同で行ったりした。
- ・日々の巡視による日常的な点検に加え，月1回の安全点検や通学路点検を行い，学校や地域の現状に即した指導を行った。また，PTAでは，「学区内危険箇所」の状況についても確認を行い，老朽化した注意喚起を促す看板の撤去と新たな設置作業を行った。
- ・月2回（1日・15日）の安全デー，定期的な教職員の学区内巡視（月1回は輪番で，学期1回程度全職員で実施），交通指導隊やスクールガードリーダーによる見守りと情報共有，「子ども110番の家」との連携などにより，保護者や地域と連携しながら安全教育の充実に努めた。

事業の効果

- ・「まつしま防災学」については，各学年ごとの計画に基づいて指導を積み重ねてきた。特に，3学年では，校内での様々な場所での地震からの自分の身の安全確保について，「総合的な学習の時間」において学習したことをもとに掲示物を作成して全校児童に呼び掛ける活動が行われるなど，防災に対する意識の高まりが見られた。
- ・避難訓練・引き渡し訓練においても，真剣な態度での取組が見られた。また，引き渡し訓練については，回数を重ねることで保護者の中に活動への理解が深まり，より実際に即した訓練として実施することができた。
- ・学校だけでなく，各関係機関や地域の方々に参加して行う避難訓練によって，貴重なアドバイスや課題の解決のヒントをいただくことができ，計画や実施内容の改善につながった。
- ・保護者や地域の方々との協働による街頭指導や巡視などにより，児童の安全な登下校を確保することができた。

事業の課題・改善策

- ・地域や異校種間との連携については，学校だけでは改善できる部分にも限界があるため，避難所の開設なども含めて，町全体の中で学校としてはどのような位置付けで進めていくかというビジョンを改めてもち，学校としての果たすべき役割について考えていかななくてはならない。
- ・危機管理マニュアルについては，一定の整備はできたが，より実際の場面で効果的な内容のものに改善を図る必要がある。

事業の方向性 継続 縮小 拡大 統合 廃止 変更 その他（ ）

基本施策2：学校教育の充実

『未来の松島を担う、夢と志を持ち、誇りと自信に満ちた児童生徒の育成』

5) まつしま防災学の強化

- ・「自助」「共助」「公助」を基軸に据えた「まつしま防災学」の推進（◎重点事業）
（小学校・中学校の防災教育共通カリキュラムの作成，ライフライン，防災における備蓄等についての学習）
- ・地域との協働による防災教育の実施
- ・安全な教育環境の整備と防災体制の整備（太陽光発電による緊急用電源設置）

事業目的と概要

- ・危険の予測と回避する力
- ・防災の基本的な知識
- ・災害時に支援者として貢献する意識
- ・安心安全な教育環境の整備と防災体制の整備として，太陽光発電による緊急用電源設備の設置

事業実施状況

- ・東北福祉大学，町社会福祉協議会による防災，減災に関する講話と体験学習を行った。
- ・防災マップを制作し，校舎外壁へ設置した。
- ・再生可能エネルギー導入事業（総務課環境防災班）により，校舎屋上に太陽光パネル，敷地内に蓄電池，職員室に表示モニターを設置し，災害等の緊急時における緊急用電源設備を設置した。

事業の効果

- ・生徒個々の防災に対する意識が向上した。
- ・津波に対する状況の理解と高台避難の重要性を認識することができた。
- ・災害時の避難について，個々の生徒が自分のこととしてとらえられるようになった。
- ・自分の地域の安全について考えるようになった。
- ・保護者対象のアンケートでは，
①「「まつしま防災学」や避難訓練等で，災害時の心得を育てようとしているか」について，「そう思う」「だいたいそう思う」の割合が，95％に達している。
- ・緊急用電源設備は，通常時は太陽光発電を最大限活用し，災害時は，松島町地域防災計画における地域の重要な避難施設として，照明等に使用しなければならない電力を確保することができた。また，再生可能エネルギー導入事業では，太陽光を発電装置としているため，CO2 排出量の削減に努めることができ，発電装置の表示モニター等によって，生徒等に太陽光発電への興味関心を高めることができた。

事業の課題・改善策

- ・津波や台風による水・土砂災害など，災害の種類に応じた避難等の仕方を身に付けさせていく必要がある。
- ・避難所開設時に，支援者として力を発揮するための行動訓練を行っていかなければならない。
- ・太陽光発電装置等は，緊急時に利用できることが前提であるため，定期的な点検等は総務課環境防災班と連携し実施していきたい。また，発電装置の表示モニターや計測器等を活用し，防災教育と連動し発電の仕組み等の指導を計画していきたい。

事業の方向性 継続 縮小 拡大 統合 廃止 変更 その他（ ）

基本施策3：地域文化の継承と創造

『歴史と文化を継承し、文化遺産の保護と活用を図った教育の推進』

1) 歴史と文化と地域を学ぶ学習の推進

- ・地域との協働によるふるさと体験型教育の推進（◎重点事業）
- ・ふるさと松島の探究と新たな魅力の発見・発掘への取組
- ・地域の魅力ある文化、伝統の継承及び発信への支援
- ・特別名勝松島の景観保持と歴史文化遺産の文化財教育への活用
- ・町内地域ごとの歴史・文化史跡・名所等の確認調査及び集約
- ・歴史・文化遺産の調査及び整理・保護のための施設・設備上の工夫

事業目的と概要

- ①松島の歴史や文化財を生かした教育を目指し、出前授業や文化遺産・教育資源の掘り起こしを行い、教育委員会所管の施設の維持管理とともに体験活動の場として整備する。
- ②松島町は国・県、町指定の多くの有形文化財や記念物を抱えることから、それらの文化財の保護と整備について保護管理指導などを行い、文化財を保全し後世に伝え継承することを目的とする。

事業実施状況

- ①施設維持管理：品井沼干拓の歴史を伝える品井沼干拓資料館や潜穴・ずり穴の整備・維持管理及び国指定史跡西の浜貝塚を公園として管理し、広く一般に公開した。
- ②体験活動の実施：三陸道春日 PA で文化財展示及び夏休みに親子体験教室、また塩釜地区 2 市 3 町共催事業として「縄文土器づくり教室」を実施した。
- ③出前講座：瑞巖寺修理現場や品井沼干拓資料館、学校等を対象に実施した。（19 件・496 人）
- ④文化遺産の掘り起こし：地域の埋もれた文化遺産等について各分館長を通し情報の収集を図った。
- ⑤文化財保護委員会：2 回開催。申請のあった案件について審議、新たに町指定文化財 1 件を指定。
- ⑥文化財修理保存事業補助：瑞巖寺本堂解体修理事業等指定文化財の修理事業及び被災した文化財の修理事業（圓通院大非亭他 2 件）についても国・県とともに補助を行った。
- ⑦特別名勝松島の現状変更・埋蔵文化財発掘の届出：書類についての指導と意見書を県に進達した。
- ⑧文化財パトロールの実施：文化財保護地区委員と 5 ヶ所を選定し遺跡の現状を調査。
- ⑨文化財防火デーの実施：文化財建造物の防火意識向上のため、瑞巖寺・消防団他関係団体の協力で消防訓練を実施した。

事業の効果

- ①品井沼干拓の遺構は、町外からの見学者が多く、特に県内小学校の社会科見学での利用が多かった。また、西の浜貝塚は学術的に名高く、公園としても町民の憩いの場となっている。
- ②三陸自動車道春日 PA の文化財展示室では、沿線の名所を紹介し市町ごとに展示コーナーを設け、夏休みには PA の利用者を対象に各種体験教室を開催し、親子での縄文文化に触れる機会を設けた。
- ③出前講座では、町内外の各団体等に、松島の歴史や文化に広く興味を持ってもらうことができた。
- ④各地域の隠れた文化遺産の掘り起こしを行い、数多くの情報を収集することができた。
- ⑤新たな文化財を含め、文化財保護についての方向性を確認できた。
- ⑥国・県・町の補助を受け、速やかに修理を行ったことにより、観光資源として活用できた。
- ⑦申請者の事業計画に支障がないよう、迅速な処理ができるよう指導した。
- ⑧町内には 100 ヶ所の遺跡（埋蔵文化財包蔵地）があり、毎年 5 ヶ所の現状を確認したことで無届による改変を防ぐ効果となった。
- ⑨町内には文化財建造物が多くかつ密集しているため、火災等から価値ある文化財を守るため、各関係機関と訓練を通じ連携を確認することができた。

事業の課題・改善策

- ①品井沼干拓資料館については、展示解説を増やすなど、より効果的な学習ができる施設として環境づくりが必要である。また、ずり穴の中には柵などが未整備の所があり早急な対応が必要である。西の浜貝塚公園については、あやめ園の整備を重点的に行う予定である。
- ②春日 PA では、PR とさまざまな体験イベントを開催するなど利用者の増に努めたい。土器づくり教室についても継続事業として、参加者の増を図っていく。
- ③④出前講座は、引き続き依頼のあったものについて対応していくが、地域に埋もれた文化遺産の掘り起こしを行っていくことで、多様な講座メニューを用意できるようにしていきたい。
- ⑤委員会は文化財の保護及び活用に関し、調査審議する機関として今後も適宜開催していく。
- ⑥⑦被災した文化財について所有者と随時協議し、速やかに対応できる体制を維持していく。
- ⑧震災の影響で地形が変わっている遺跡もあり、継続した調査が必要がある。
- ⑨今後も関係機関と連携し、文化財を後世に残すための防火訓練等を実施していく。

事業の方向性 継続 縮小 拡大 統合 廃止 変更 その他（ ）

基本施策 4：生涯学習の推進

『協働による家庭教育，地域活動の推進』

1) 地域で支える家庭教育

- ・ 公民館・分館事業における協働による地域活動の推進（◎重点事業）
- ・ 自主サークル育成への支援
- ・ 地域に根ざした世代間交流活動や青少年健全育成への取組と支援
- ・ 心の通い合う家庭づくりの啓発と子育て支援
- ・ 放課後の子どもの社会性を育む取組の推進
- ・ 地域との協働による地域交流センターの活用促進

事業目的と概要

- ① 公民館・分館活動では，12 分館において町民ふれあいスポーツ大会等の地域が主体となって参加協力でき，地域交流できる各種事業の推進を図るとともに，各種の生涯学習機会の提供と自主サークル活動の推進を図る。
- ② 協働教育の推進としては，地域と学校，家庭が連携した協働教育の体制強化と子どもの居場所づくりなどの子育て環境の整備を進める。

事業実施状況

- ① 分館対抗として実施している「町民ふれあいスポーツ大会」は 53 回目の開催となり，歴史ある事業として町民にも広く定着した。各分館においては，分館長を中心に地域の特色を生かした多彩な事業を企画し，地域づくり・人づくりの事業について実施した。
- ② 生涯学習講座・教室については，受講者の希望や要望を踏まえ，文化観光交流館（旧中央公民館）や地域交流センター，勤労青少年ホームにおいて，子ども，成人，親子で参加できるメニューを実施した。特に「松島の歴史を学ぼう講座」や「竹細工教室」，「町史を読む講座」は根強い人気で受講者も多かった。
- ③ 青少年健全育成松島町民会議事業については各事業の推進に努め，平成 25 年度には夫婦町である秋田県にかほ市で開催された「中学生リーダー研修会」に松島中学校から 5 人が参加し，リーダーとしての研鑽と交流を深めた。

事業の効果

- ① 「町民ふれあいスポーツ大会」は，子どもから高齢者まで多数参加し，参加した選手同士の親睦と地域のコミュニケーションが図られた。また，各分館においては，分館長を中心に研修会やレクリエーション大会などを実施し，地区内の交流と親睦が図られた。
- ② 公民館教室の「竹細工教室」は，地元産の竹材を使用し，小学生から大人までの参加があった。また，町内ホテルの協力で開催した「家庭料理教室」は，親子が多数参加し好評を受けた。「松島の歴史を学ぼう講座」は，松島の奥深い魅力を再発見する講座として，今年度も参加申し込みが殺到し，講師役の職員も知識の習得とともに資質の向上にも繋がる良い機会となった。
- ③ 新規に実施した事業として，夫婦町での「中学生リーダー研修会」では，にかほ市の三つの中学校と松島中学校の計 23 名が参加した。参加者は，夫婦町の由来や歴史や文化，リーダーとしての知識習得など，1泊2日での交流を通し，お互いに成長していく姿が見られた。

事業の課題・改善策

- ① 「町民ふれあいスポーツ大会」は誰もが気軽に参加できる種目としているが，参加者の固定化傾向が見られるため，実施内容と参加しやすい環境づくりの検討が必要である。
- ② 文化観光交流館（旧中央公民館）をはじめ，勤労青少年ホームや地域交流センターで実施している講座・教室についても受講者の意見や要望，時代のニーズに合った興味を引くメニューとして，地域の文化や歴史，隠れた魅力を再発見できるよう内容を検討し，子どもから高齢者まで参加できるよう努めていく。
- ③ 未来を担う青少年が様々な社会性の習得と人的な交流を踏まえながら，健全な成長と将来への目標を見つけることができるよう，今後もその機会や環境づくりに努めていく。

事業の方向性 継続 縮小 拡大 統合 廃止 変更 その他（ ）

基本施策 4：生涯学習の推進

『協働による家庭教育，地域活動の推進』

2) 芸術文化活動の推進

- ・音楽や芸能等の芸術鑑賞，自主的な芸術活動の推進（◎重点事業）
- ・芸術文化に関する展示や演奏会などの開催と国内及び国際交流事業の検討
- ・自主サークルの学習活動への支援
- ・社会教育施設の整備と運用の充実
- ・図書室機能の充実と読書活動の推進

事業目的と概要

- ①中央公民館は文化観光交流館として整備したことに伴い，多様化する生涯学習ニーズや歴史文化及び観光交流等の発信拠点施設として，町民の多くが質の高い音楽や芸能，文化芸術に触れることのできる機会の創出を図る。
- ②文化や芸術は，豊かな人間性を育むものであるとともに，人と人との心のつながりや相互に理解し，尊重しあう土壌を醸成するものであることから，町民が芸術や文化活動に自主的に参加や発表できる機会の提供と環境づくりを図る。
- ③中央公民館（文化観光交流館）の効率的運用と勤労青少年ホーム，地域交流センター等の利活用の推進
- ④蔵書を含む図書室等の環境整備と図書の利活用による読書活動の推進

事業実施状況

- ①文化観光交流館（旧中央公民館）の大規模改修事業に伴い，平成 24 年 10 月から平成 25 年 9 月までの 1 年間，手樽地域交流センターを臨時の文化観光交流館（旧中央公民館）施設として運営し，平成 25 年 9 月に新たに文化観光交流館としてオープンした。こけら落とし事業としては，野村萬氏ら人間国宝の饗宴でオープニングイベントを行い，その後も文化観光交流祭や音楽・演劇イベントの開催，産業まつりやまつの市とも連携し，イベントに併せた集客を図るとともに質の高い芸術や文化に触れる機会を提供した。
- ②文化観光交流館の供用開始により，これまで町内各施設で活動していた生涯学習の自主団体の施設利用についても，機能性の高い施設として利活用できるように努めた。
- ③宮城県・（財）日本青少年文化センター・町の共催で実施する巡回小劇場は，小公演事業として毎年実施しているが，平成 25 年度は，9 月 17 日に一流の演奏家によるヴァイオリンとチェロの二重奏の公演を実施し，松島第二小学校を会場に町内の 4・5 年生 200 人が参加した。
- ④要望等計画に基づく図書購入と分類配架，寄付金に伴う図書の整備や廃棄，寄贈図書への対応を行い，幼稚園・保育所等への図書の巡回文庫やボランティア団体による読み聞かせ会やスタンプラリーを実施した。

事業の効果

- ①町内唯一の文化的施設として質の高い芸術や文化の公演イベントを実施できる環境が整い，町民が芸術等に触れる機会を提供したことで，芸術文化に対する関心が高まった。
- ②新装となった文化観光交流館は，バリアフリー化やエレベーターの設置で機能性や利便性が高まり，文化・芸術団体をはじめ，生涯学習関係団体等による演奏や発表の場として利活用され，利用者数の増に繋がった。
- ③巡回小劇場や小公演事業は，本物の演劇や演奏を間近に鑑賞することができ，子どもたちの感性や創造性を育むよい機会となった。
- ④利用者の要望や年次計画に沿った図書の整備は，利用者の増と読書活動の推進に効果があり，特に巡回図書は，子どもたちの読書の意識付けに大きな効果が見られ，進んで読書する子どもたちの姿が見られるようになった。また，寄付を受け児童図書をを中心に整備した「いずみ文庫」は，子どもたちの読書意欲の向上に繋がった。

事業の課題・改善策

- ①文化観光交流館での質の高い芸術・文化イベントの実施は，町民の芸術文化に対する興味関心を高めるものであり，今後も質の高い事業を継続して展開していくことが本施設の大きな役割として求められる。また，同時に企画や運営等を行う職員の資質の向上が必要であり，設備等の操作研修等を実施し，町の芸術文化の振興と発展に努めていきたい。
- ②公演等の継続的实施に向け，関係備品の整備と施設運営体制の検討に努めていきたい。
- ③今後も継続的に実施していくため，公演内容を含め県や関係機関へ要望していきたい。
- ④蔵書の分類・整理と配架・蔵書スペースを確保し，継続して資格を持つ図書司書等の人的配置を確保し，利用者の要望に対応できるよう努めていきたい。

事業の方向性 継続 縮小 拡大 統合 廃止 変更 その他（ ）

基本施策4：生涯学習の推進

『協働による家庭教育，地域活動の推進』

3) 国際感覚を培う生涯学習

- ・歴史と文化、景観を松島に来て楽しむ交流活動の企画検討（◎重点事業）
- ・松島の食文化などをおしたあらたな国内及び国際交流活動の検討
- ・子どもたちの国際交流，地域間交流のあり方の検討
- ・ライフステージにおける各種学習事業の実施

事業目的と概要

- ①美しい景観と歴史と文化遺産，豊かな食材に恵まれた松島町を内外に周知し，様々な団体が来町し，地域の方々と交流できる環境づくりに努める。
- ②町民が生涯にわたり，生きがいを持って活躍できる社会を築いていくことが時代の要望ととらえ，町民の生涯学習活動を支援いくという視点から，青少年をはじめ，各年齢層の要望に応えた教室・講座を実施していく。

事業実施状況

- ①サッカーをはじめ，スポーツ少年団等が参加するスポーツ大会を誘致し，子どもたちと共に保護者等の皆さんが数多く来町できる環境を整え，併せて町の自然景観や歴史や文化等の周知を図った。
- ②夫婦町交流ではスポーツ交流も継続的に行い，成人層によるスポーツ交流を実施した。また，修学旅行での来町に合わせ，松島町の小学生による歴史紹介や観光案内の資料作成に協力し，小学生相互交流へも関わり，地域間交流のあり方を検討した。国際交流活動としては，アメリカのノースカロライナ州チャペルヒルに5名の中学生がホームステイで参加し，地元中学生と交流し，外国の文化と歴史に触れた。
- ③生涯学習の講座・教室としては，希望や要望を踏まえて文化観光交流館（旧中央公民館）や地域交流センター，勤労青少年ホームにおいて，子ども・成人・親子で参加できるメニューを計画し実施した。特に「松島の歴史を学ぼう講座」や「竹細工教室」，「町史を読む講座」や新規で実施した「プリザーブドフラワー教室」は人気が高く受講者も多かった。また，地元産食材を使った「とうふづくり教室」や「パウンドケーキづくり教室」，地域との協力で「手作り料理教室」や「陶芸教室」を地域交流センターで実施した。勤労青少年ホームの事業としては，「家族ふれあい料理教室」のほか，ITルームにおいて7つのパソコン講座を実施した。

事業の効果

- ①スポーツ施設の整備等が進み，特にサッカーを中心に交流大会が開催され，子どもたちに加え保護者等が同行する中，旅行計画の日程に観光時間を組んでいただくなど，各スポーツ団体の協力を得られた交流活動となった。
- ②夫婦町交流も，昨年の締結25周年を期に交流団体や回数も増えてきており，行政だけでなく個人としての交流にも繋がった。国際交流活動として実施した，アメリカノースカロライナ州チャペルヒルとの交流も，次代を担う中学生がしっかりとした交流の土台を築き，見聞を広める取り組みとなった。
- ③生涯学習の講座・教室としては，各施設での教室や講座を開催し，子どもから高齢者まで幅広い年齢層の方に参加いただき，好評を受けた。

事業の課題・改善策

- ①次年度もスポーツ施設の整備が予定されていることから，大会誘致や交流環境の整備に向けて，関係機関との協力・連携が必要である。
- ②今後の交流事業の在り方と具体的な計画について，関係機関と検討していく必要がある。
- ③受講者の意見や時代に応じた講座や教室，プログラムを検討していくことが重要であり，今後さらに地域との連携や協力も視野にいれた内容も取り入れていきたい。

事業の方向性 継続 縮小 拡大 統合 廃止 変更 その他（ ）

基本施策5：町民総スポーツの推進

『スポーツをとおした町民の活力と地域の活性化』

1) スポーツをとおした地域間交流の推進

- ・分館活動等，地域協働による身近なスポーツの普及推進（◎重点事業）
- ・スポーツをとおした他市町村との地域間交流の企画・推進
- ・従来からの夫婦町秋田県にかほ市との交流等各種スポーツ交流の推進

事業目的と概要

- ①地域やボランティアとの協力，特に分館長やスポーツ推進員，並びに総合型スポーツクラブと連携した町民スポーツの競技力の向上と体力増進を図る。
- ②宮城県内の海洋センター設置自治体の小学生の交流イベント「マリンスポーツフェスティバル」や「ニュースポーツフェスティバル」を通して相互交流を図るとともに，海洋性スポーツやニュースポーツの体験活動の普及促進を図る。

事業実施状況

- ①分館と共催で「町民ふれあいスポーツ大会」を松島フットボールセンターを会場に，各分館長をはじめ，県サッカー協会，町内総合型スポーツクラブ，スポーツ団体，スポーツ推進員の協力を受け開催した。
- ②毎年開催の「マリンスポーツフェスティバル」と「ニュースポーツフェスティバル」が今年度も行われ，登米市の長沼漕艇場を会場にカヌー等の海洋性スポーツ事業，大郷町フラップ 21 ではミニテニス等の競技が行われ，町内の小学生が参加し，スポーツを通しての体験活動と相互交流を深めた。参加募集については，町の広報紙や各種団体を通して，参加の周知と呼びかけを行った。

事業の効果

- ①地域と関係機関が一体となった歴史あるスポーツ大会として町民の中にも定着し，恒例の大会として交流が図られ，耐力増進にも繋がった。内容についても，会場や種目について検討を重ね，初めて松島フットボールセンターを会場に屋外・屋内，年齢を問わず参加できる種目を選定し実施した。大会運営に関してもスムーズに行え，参加者からの声もおおむね良好であった。
- ②参加した子どもたちは，初めて体験するスポーツに大いに興味を示し，特にカヌーやドラゴンボートといった種目は人気が高かった。ミニテニスは，室内で手軽にできるスポーツとして普及し始めた種目で，参加した子どもたちの楽しみなが取り組む姿が見られた。

事業の課題・改善策

- ①参加する選手の固定化，あるいは参加種目によって参加者が揃わなくなる地区（分館）もあり，競技種目の選定によっては運営に支障をきたす可能性がある。今後も関係者と協議しながら，より参加しやすい競技選定と親しみやすい大会運営を目指したい。
- ②スポーツの普及は，町民のスポーツに対する意欲と健康増進に繋がるものであり，普段からはなかなか体験できない海洋性スポーツとニュースポーツについて，子どもたちだけでなく，一般の町民に対しても体験できる場を検討していきたい。

事業の方向性 継続 縮小 拡大 統合 廃止 変更 その他（ ）

基本施策5：町民総スポーツの推進

『スポーツをとoshした町民の活力と地域の活性化』

2) 体力づくりの推進

- ・COTの活用による子どもの体力向上の推進（◎重点事業）
- ・体力づくりを推進する地域コーディネーターの育成
- ・スポーツ施設の効果的な活用による町民の健康増進

事業目的と概要

- ①幼児期から体力向上の基礎を培うために、運動遊びに適した器具を活用し、集団での遊びの場を通して健全な身体の発達を育む。
- ②スポーツに関わるスポーツ団体や関係者、地域で活躍している個人等を対象に、子どもたちの体力向上を地域で支えるコーディネーターやボランティアを育成する。
- ③町民の健康増進が図られるよう、スポーツ施設を関係団体が有効に活用できる体制づくりを進める。

事業実施状況

- ①宮城県協働教育プラットフォーム事業の委託を受け、本年度も町内の保育所の幼児や幼稚園児、小学校低学年の児童を対象に、保育所や幼稚園、小学校の協力を得て、コーディネーショントレーニング（COT）を実施した。
- ②町内の総合型スポーツクラブの協力を得て、スポーツ行事における指導者の派遣や事業での指導を受け、COTを実施した。また、COTにおいては親と子で体験できる日程を組み、理解と協力について周知を図った。
- ③スポーツ団体の代表者を対象に、スポーツ施設利用に係る年間計画を調整し、各団体が円滑に施設が利用できるよう調整会議を開催した。

事業の効果

- ①子どもと指導者が十分にコミュニケーションを取りながら器具等を活用し、遊び感覚で身体を動かしたことで、運動することへの理解と楽しさを感じ、体験を重ねるごとに積極的に取り組む姿が見られた。
- ②地域の指導者として、総合型スポーツクラブの指導者が事業運営に携わったことは、地域で支える指導者の育成を進める上での足がかりとなり、地域で支えていく指導体制の土台となった。
- ③スポーツ団体の年間利用計画を調整したことで、各団体が効果的かつ円滑に利用できる環境を整えるうえで必要不可欠な会議であった。

事業の課題・改善策

- ①幼年期に継続して実施していくことが求められるCOTであるが、今後も継続するためには学校や関係者の協力と指導体制の確立が必要である。
- ①② COTは、小学生低学年にも対象を拡大し実施したが、今後も学校や地域の指導者の理解と協力が事業運営に不可欠であり、協働教育プラットフォーム事業における地域人材育成を検討していく必要がある。
- ③今後整備予定の施設も考慮し、さらに効果的な利用を検討していくため、事前に活動団体の把握と情報収集を行い、調整会議に備えていきたい。

事業の方向性 継続 縮小 拡大 統合 廃止 変更 その他（ ）

基本施策5：町民総スポーツの推進

『スポーツをとおした町民の活力と地域の活性化』

3) 観るスポーツの推進

- ・レベルの高いスポーツ大会の開催や招致の推進 (◎重点事業)
- ・一流アスリートの招致によるスポーツ教室等の開催
- ・子どもたちを主とした国際大会等の観戦事業の企画・検討

事業目的と概要

- ①町内のスポーツ人口とスポーツの推進のため、一流のアスリートが参加する大会等の誘致や選手と交流できる場の創出。レベルの高い競技を間近で観戦し体感できる環境づくりを目指す。

事業実施状況

- ①町内で定例的に開催される規模が大きくレベルの高いスポーツ大会として、全日本実業団女子駅伝競走大会(クイーンズ駅伝 in 宮城)があり、今年度も12月に開催され、広く町民に周知することができた。この全日本実業団女子駅伝競走大会は、文化観光交流館前がスタート地点であることに加え、オリンピックや世界陸上に出場した選手が多く参加し、一流のアスリートを間近に観ることのできる大会であった。大会運営では、町内のスポーツ団体からも多くの沿道整理として協力し、25年度は3回目の大会として、地元の「五大堂太鼓」が協力し、スタート時の太鼓演奏で雰囲気を大いに盛り上げた。また、出場チームが地元の小学校を訪問し、陸上競技の楽しさを教える「ふれあい陸上教室」を実施し、松島第一小学校に「しまむら」チームが訪れ、児童達と交流した。これ以外にも町内の運動施設に女子サッカーの「なでしこチャレンジリーグ」を誘致し、試合が開催され、生の試合の臨場感を提供することができた。

事業の効果

- ①全日本実業団女子駅伝競走大会は、一流のアスリートが出場する大会として全国でも有名な大会であるとともに、テレビで生放送されるスポーツイベントとして関心が高まってきており、沿道の観戦者数も20万人を超え、町民ボランティア参加も協力的で定着化しつつある。これら大会によって、スポーツに対する関心と意識付けが高まり、町民全体のスポーツを通じた健康増進に繋がった。女子サッカーにおいても地元選手の活躍もあり、人気が高まりつつある。

事業の課題・改善策

- ①一流アスリートを間近に観ることはなかなか体験する機会が無く、町内で開催されることは、スポーツへの関心と意識付けには非常に効果があると考えられる。今後も継続的に開催を誘致できるよう、施設の整備も含め、受け入れ体制と環境づくりに努める必要がある。

事業の方向性 継続 縮小 拡大 統合 廃止 変更 その他 ()

基本施策5：町民総スポーツの推進

『スポーツをとoshした町民の活力と地域の活性化』

4) スポーツをとoshした心と体の健康

- ・高齢者向けスポーツ教室の実施
- ・ウォーキング等推進のための環境づくりの推進

事業目的と概要

- ①スポーツ振興基本計画の重点施策でもある「高齢者・障がい者の健康寿命の延伸」のために、誰もが安全かつ快適にスポーツを楽しむことができるよう、施設の整備とともにスポーツに親しむ環境づくりを創出する。
- ②町内の史跡や名所を巡り、健康増進が図られる町内ウォーキングコースの整備とマップ作成を進める。

事業実施状況

- ①高齢者を対象に、屋外多目的運動場を建設し、高齢者の方々が悪天候時にも運動できる施設とするため、建設に向けた設計業務に着手した。
- ②町内の名所等を巡るウォーキングコース策定を目的に、分館長を中心とした地域の方々の協力を仰ぎ、それぞれの地域にある隠れた史跡や名所についての情報収集を行った。

事業の効果

- ①高齢者の方々が運動する楽しさやスポーツへの関心を高めた事業となった。
- ②各分館長の協力等により、これまで知られていなかった史跡等があることが分かった。今後も引き続き情報収集を行い、コースの設定とマップづくりに生かしたい。

事業の課題・改善策

- ①高齢者と障がい者を対象に楽しく参加でき、スポーツに対して関心を持つことができるメニューづくりを健康長寿課や関係機関との検討を進める必要がある。
- ②継続的に進める必要があることから、さまざまな地域の協力者を募り、生涯学習全体で活用できる資料としても生かせるものとした。

事業の方向性 継続 縮小 拡大 統合 廃止 変更 その他 ()

平成26年度（平成25年度対象）松島町教育委員会教育行政点検評価報告書 についての意見書

片 倉 誠 之 助

桔 梗 元 子

第1章 教育委員会議

教育委員会議，教育委員の研修

- ・教育委員会定例会は，松島町教育委員会会議規則に基づいて毎月1回開催し，年間12回実施している。定例会では一般事務報告，教育長報告，各学校へ諸問題解決のための指示と指導助言等の報告が行われ適切に運営されている。また，教育委員会臨時会は必要に応じて開催され，計8回開催されている。会議内容及び結果も詳細に報告されており，町教育行政の状況を的確に把握しながら，教育委員会の役割と機能を十分に発揮している。
- ・教育委員会教育施設訪問については，年間を通して所管する教育機関の事業実施等に応じて意図的・計画的に実施されており，実施状況の確認や実態把握及び適切な指導と助言が行われている。
- ・教育委員研修では，仙台管内教育委員会協議会の研修を活用して教育委員としての資質向上や教育の課題把握に取り組んでいる。また，移動研修では当町の教育振興や文化財保護の在り方を研修し，時宜を得た研修である。今後とも当町の教育課題を明らかにして改善策の提案等を期待している。

第2章 平成25年度松島町教育の基本施策

1 幼児教育の充実

- ・幼児教育の充実は「元気な松島っ子の育成」，「幼保小中高の連携推進」，「家庭の教育力の向上支援」，「地域で支える子育て支援」の4つの施策で構成されている。幼児の家庭・地域・教育環境・連携推進と，幼児を取り巻く環境を網羅して対応策を緻密に練り上げているので評価できる施策である。
- ・幼児の身体能力向上を図るため，COT（コーディネーショントレーニング）や体づくり運動の活用そして外遊びを推奨している。結果として幼児は体を動かす楽しさを学びまた，意欲的に遊ぶ姿が多く見られるようになるなど大きな成果が表れている。今後とも継続してほしい施策である。
- ・ALT（外国語指導助手）による国際理解教育の推進にも取り組んで，英語や外国人に慣れ親しむきっかけづくりを実践している。幼児から英語による遊びを通して，英語に親しみや興味を持たせることは，小学校に入学してからの「外国語活動」の導入にも関連するので，今後とも計画的・継続的に推進してほしい。
- ・幼保の交流事業を通して，小学校へのスムーズな移行と魅力的な幼児教育プログラムの検討など成果を上げている。
- ・幼保小中の連携から，特別支援の早期対応が充実している。気になる幼児に早期から，保護者・臨床心理士・保健師・保育者で話し合い，支援を必要としている幼児に個別的な支援を実践していることはすばらしい取組である。今後とも継続して支援内容の充実を期待します。あわせて個別支援計画等の充実と効率的な活用を期待します。
- ・地域で支える子育て支援では，親子交流，預かり保育，降園後の園庭開放，ごみゼロ運動，アンケー

ト実施など創意工夫しながら取り組んでいることを高く評価します。また、預かり保育は、保護者に多く利用されており今後もいろいろな事由で需要が高まるものと推測されます。職員の会議や研修等で実施できない日時があると思いますが継続してほしい施策である。

2 学校教育の充実

- ・学校教育の充実は「児童生徒の学力向上」、「夢と感動のある学校づくり」、「心身ともに健全な児童生徒の育成」、「松島の歴史と文化を学ぶ活動の充実」、「まつしま防災学の強化」、の5つの施策で構成されている。学力向上、夢と感動のある学校、心身ともに健全な児童生徒、松島の歴史と文化を学ぶ、そしてまつしま防災学は喫緊の課題である。各施策ごとに内容が簡潔にかつ分かりやすく明記されているので高く評価できる施策である。
- ・児童生徒の学力向上については、個に応じたきめ細かな指導、家庭学習の習慣化、学力向上推進体制の充実、教職員研修の充実など具体的な施策で継続的で充実した取組を実践しているので高く評価したい。
- ・少人数指導やTT（複数教師による指導）等の学習指導体制を活用して、学ぶ喜びを体験しながら学習における基礎・基本を確実に身に付ける取組を評価したい。
- ・学び支援事業を活用して自主学習支援の体制を整備したことは、児童生徒の学ぶ姿勢づくりや学習への取組づくりを行うことで学習意欲を高め、分かる喜びにつながっている。今後も継続して推進してほしい。
- ・各校で家庭学習の手引きを作成して各家庭に配布したことは、学校と家庭での共同で取り組む学習習慣作りで高く評価したい。
- ・松島第一小学校における学校教育の充実の実施は、校内研究を国語科における書く活動の指導としての授業実践と学力向上サポート支援事業を活用して研究授業を実施して指導法等の開発に取り組んでいる。6回の授業実践と3回の研究授業を実施したことはすばらしい教育活動の実践である。基本的な生活習慣の確立では、「松一小生活のきまり」を活用し、月末に児童と教師による相互評価を行うことで定着を図っている。

生活習慣の定着は、学年に応じてきめ細やかな段階的な支援が必要であることから継続してほしい。

町統一学力テストでは、児童の実態を把握することで教師の指導法改善に役立っていることから、結果の分析と活用に継続して推進してほしい。

- ・松島第二小学校における学校教育の充実の実施は、少人数指導や個に応じた指導と普通学級での研究授業そして日々の授業実践で取り組んでいる。また、希望する児童に放課後の個別学習やサマースクールを行っている。少人数指導と個別の支援に効果が現れている。CDT 学力検査からは、少しずつではあるが学力向上の結果が表れている。学校教育の充実の施策の効果がでているので、取り組みの評価をしっかりと実施して継続して推進してほしい。PTAと協力して「ノーゲーム&減テレビデー」は興味ある取り組みである。実践を評価して今後の支援に生かしてほしい。
- ・松島第五小学校における学校教育の充実の実施は、校内研究（国語科）の単元を貫く言語活動と国語科以外の教科での言語活動の充実に取り組んでいる。また、家庭と連携しながら「ノーテレビ・ノーゲームデー」や「家庭学習強調週間」を実施している。成果として国語科の物語文や説明文で読みと取りの理解が深まっている。また、書くことに対する抵抗が少なくなっている。これらは施策の実践の成果である。今後とも継続した指導を期待したい。
- ・松島中学校における学校教育の充実の実施は、個に応じたきめ細やかな指導の推進と家庭学習の習慣化と教員の資質向上である。TTや学習支援員の補助により、個に応じた指導が可能になった。progressタイムの実施で1週間の家庭学習の定着やサマースクールで自学学習の定着を図れた等の成果が現れ

ている。また保護者へのアンケートを実施して授業改善や家庭学習の定着に活用している。TT や少人数指導の充実を工夫して、個に応じた支援を必要とする生徒や不登校傾向の生徒への対応を期待します。

- ・夢と感動のある学校づくりについては、幼稚園・小学校による相互授業参観、小6中1学習発表交流会、中学校との連絡会などを実施して幼小中の連携を密にして教育活動の創造と支援を行っている。

幼保小との連携は、小1プロブレム対策として高く評価できる実践である。また、小6中1学習発表交流会の小中交流は中1ギャップ解消に有効な取り組みである。これからも計画的に推進して連携の効果を高めてほしい。

- ・郷土・松島を素材とする歴史文化教育については、各学校で総合的な学習の時間に計画的に実施している。自分の住んでいる町について学び、他の町と比較して松島町のよさを学んでいる。小中9年間を見通した教育計画の充実を期待する。特別支援教育では個別に支援を必要としている児童生徒の実態把握と校内支援体制づくりが必要です。特別支援教育校内委員会等を活用して、個別の支援計画の作成と評価について更に充実することを期待します。
- ・まっしま防災学の強化については、すばらしい取組であり町内小中学校の特色ある教育活動の一つである。管理職及び防災主任を中心に児童生徒の命を守る視点から、防災教育（安全教育を含む）の指導の徹底をお願いしたい。また地域との協働による防災教育の実施に期待したい。

3 地域文化の継承と創造

- ・掲げられている事業項目について、事業目的と概要、事業実施状況・事業の効果・事業の課題や改善策など、報告に列記されていることが年間を通じて着実に執り行われていると見受けられる。このことについては大変評価すべきであり、今後も顕著に遂行されるよう努力願いたい。

また、松島の歴史と文化、世界に誇る史跡や景観など後世に伝える要因として、松島で学ぶ義務教育期間を利用し、学年に見合った実地見学、出前講義、地域に伝わる物づくり、民話などをしっかりと継承していく事が望まれる。そのうえで町民に対する松島学講座が重要課題と考えられる。広報誌等の活用も視野に入れて松島学について町民に知らしめる必要性が急務であると考えられる。

4 生涯学習の推進

- ・「町民ふれあいスポーツ大会」は定着した行事として、町民にもなじみのあるものだが、参加者の固定化傾向が課題として続いているにも関わらず改善がなされていない。しかしながら、このスポーツ大会は地域のコミュニケーションを図る企画として重要であることを考慮すると、内容の検討と参加しやすい環境づくりについて、今後も引き続き改善されていくことを期待したい。

また、町民の要望や希望に沿う生涯学習講座・教室は特に効果が期待されたと思う。「松島の歴史を学ぼう講座」「竹細工教室」「町史を読む講座」「家庭料理教室」など大変良い企画であり評価できる。「松島の歴史を学ぼう講座」「町史を読む講座」などは、幅広く奥の深い松島の魅力や歴史について学ぶ機会を重ね、後世への継承につなげていただきたい。

家庭料理教室についても、今後は「松島に伝わる料理」など、忘れ去られる郷土料理を大切に、これらを学ぶ機会を開講し、食の伝授を続けていただきたい。

新規に行われた「中学生リーダー研修会」では、夫婦町にかほ市の3つの中学生と1泊2日の交流を通し夫婦町の由来や歴史や文化、リーダーとしての知識習得などを学び短期間でありながら成長が見受けられた事はとても評価できる。これからもこのような機会を企画し、青少年の育成に努めていただきたい。

子どもの居場所づくりとして、各小学校区で留守家庭児童学級を開設・運営していることは評価できる。ただし、施設の整備や内容の充実など課題は残されている。

- ・(旧)中央公民館の大規模改修に伴い、松島町文化観光交流館として、機能性の高い施設、利便性のある施設として生まれ変わったことは、大変喜ばしいことであり高く評価できる。また、このような文化施設において、質の高い芸術や文化に町民が、親しみ触れる機会を多く保てるような継続企画を希望する。

町の施設として遅れているのが図書館である。ゆえに現状の図書室の充実を図り、快適に町民が利用できるよう継続的に整備していただきたい。子どもたちの読書意欲、意識向上は大変重要であり、引き続き子どもたちが本に親しむ企画などを検討していただきたい。

- ・サッカーをはじめ、スポーツ少年団等が参加するスポーツ大会の誘致により町外からの子どもたちや保護者の来町、夫婦町の交流団体との交流活動、国際的な交流活動など、これからの交流事業の拡大について継続的に計画を検討し、小中高生、青年などが国内外へと進出する交流活動の機会を設け、素晴らしい松島を国内外に広報するとともに幅広く見聞を広め、将来を担う青少年児童の育成に励んでいただきたい。

ライフステージに合わせた生涯学習は、受講者の希望なども取入れ、講座が開講されており、今後も新規企画をおりまぜながら、あらゆる年齢層が参加しやすい講座を開講継続していただきたい。大変評価できるものである。

5 町民総スポーツの推進

- ・町民の健康管理と体力増進を図るべく毎年計画され、定着している「町民ふれあいスポーツ大会」など地域と分館活動が一体化して行われる企画であるが、参加者の固定化や参加人数が揃わない事態への対応が急務になっている。たとえば肺活力を競う競技に種飛ばし、ストレス解消に大声コンテスト、老若男女混合リズムダンスなどを実施し、観光客も自由に飛び入り参加ができる種目を加えてみるのも一案かと考える。
- ・宮城県協働教育プラットフォーム事業の委託を受けて、本年度も町内におけ保育所や幼稚園児、小学生低学年の児童を対象に COT が実施できたことは評価できる。今後も継続し続けられるように指導体制の確立を求める。
- ・町内開催が定例化されており、全国的にも周知されている KHB 松島ハーフマラソン大会や全日本実業団女子駅伝競走大会(クイーンズ駅伝 in 宮城)は、一流アスリートが出場する大会でもあり、そのような選手とともに競技に参加したり間近に観戦したりすることでスポーツを肌で感じることができ大変評価できる。今後もスポーツ大会の招致推進が図れるように、施設の整備も含め環境づくりを継続していただきたい。
- ・スポーツ振興基本計画の重点施策「高齢者・障がい者の健康寿命の延伸」のためにも、高齢者や障がい者が、積極的にスポーツに関心が持てる講座や運動などのメニューを取り入れ、心身ともに健康で元気な住みよい町づくりを期待する。

また、介護予防を目的に温水プールを利用した「介護予防教室」を実施したことは評価できる。今後も継続していただきたい。

町内の史跡や名所巡り、健康増進が図られる町内ウォーキングコースの整備とマップ作成については、今後の見通しをたて早急の実現にむけて尽力いただきたい。

平成 26 年 9 月

評 価 者

松島町教育委員会

| | | |
|-------|-----|-----|
| 委 員 長 | 平 | 秀 毅 |
| 委 員 | 早 川 | 成 美 |
| 委 員 | 瀬野尾 | 千 惠 |
| 委 員 | 藤 澤 | 美 子 |
| 教 育 長 | 小 池 | 満 |

学識経験者

| | | |
|--|-----|-----|
| | 片 倉 | 誠之助 |
| | 桔 梗 | 元 子 |

